

国際理解教育 外国語活動の実践



国際理解教育全体計画

守谷市教育委員会

国際理解教育の目標

国際化にふさわしい日本人としての資質・能力の基礎を育てる

国際理解教育の内容

- 人権意識の涵養
- 異文化理解と尊重
- 自国の文化の理解と尊重
- コミュニケーション能力の育成
- 国際協力と協調

英語活動・外国語活動のめざす内容

- 異文化の理解と尊重
- 自国の文化の理解と尊重
- 主体性の育成

守谷市外国語活動全体目標

外国語に触れる体験活動を通して、外国語を聞いたり話したりすることに興味関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育てるとともに、言語、文化、生活、習慣などに対する興味関心を高め、国際理解の基礎を培う。

小学校英語活動・外国語活動の目標

低学年	・相手の話をよく聞いたり、うなずいたりしながら、楽しく活動に参加している。 ・あいさつや遊びを通して、英語のリズムや音声に慣れ親しもうとしている。 ・外国語に関心をもち、言葉のおもしろさや大切さに気付いている。
中学年	・知っている英語やジェスチャー等を使って、進んで相手と関わり、楽しくコミュニケーションを図ろうとしている。 ・ゲーム等を通して、英語のリズムやイントネーションに慣れ親しみ、積極的に聞いたり、話したりしている。 ・ALTとの交流を通して、世界には多様な言語や文化があることに気付いている。
高学年	・積極的にコミュニケーションを図り、自分の伝えたいことを表現しようとしている。 ・ALTの英語を聞いて大まかな内容を理解したり、また類推したりして、様々な活動を進めている。 ・世界の国々の様々な生活や文化に触れ、自分たちの生活がそれらの国々と密接に結びついていることに気付いている。



中学校外国語（英語）科目目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

I 守谷市の英語活動・外国語活動にあたっての基本的な考え

1 英語活動・外国語活動のねらい

社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められるとともに、人材育成面での国際競争も加速していることから学校教育において外国語教育を充実することが重要な課題の一つとなっている。

「人に優しい街づくり」を目指す守谷市としては、国際化時代への積極的な取り組みの第一歩として、市内全小中学校に英語指導助手（Assistant Language Teacher 略して ALT）を配置し、英語活動・外国語活動を位置付けた。外国語に触れる体験的活動を通して、外国語を聞いたり話したりすることに興味・関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育てるとともに、言語、文化、生活、習慣などに対する理解を深め、国際理解の基礎を培うことをねらいとし、様々な国の人とのふれあいを通して、優しさ・思いやりを基軸にした国際理解の精神を育てると共に国際コミュニケーションの素地を養い、次代を担う人づくりを目指して進めていきたいと考える。

2 英語活動・外国語活動の意義と必要性

（1）小学校段階から実施する理由

児童期は、新たな事象に関する興味・関心が高く、言語をはじめとして、異文化に関しても自然に受け入れられる時期にある。このような時期に外国語に触れることは、コミュニケーション能力を育てる上でも、国際理解を深める上でも大変重要な体験となる。「英語活動・外国語活動」そのものが異文化に触れる体験となり、さらに、外国の人や文化に関わろうとする時の手段として、外国語を活用しようとする態度を育成することにもつながる。すなわち、言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である。

また、児童期は、言葉に対する適応性という点からも適切な時期でもある。音声を中心に慣れ親しんでいく過程は、日本語の場合と同様であり、言葉を全体的に把握し、言葉のリズムやイントネーション、アクセントなどを自然な形で受け入れていくものと考えられる。

（2）英語を取り上げる理由

今日英語は、航空、商業、観光、先端技術分野、国際会議等の国際共通語として用いられており、多くの外国人と交流を深め、国際理解を進める上で最も有効な言語であり、世界とのコミュニケーションを図る上で欠かせない言語であるといえる。現行の中学校学習指導要領では外国語が必修教科となり、しかも「指導計画の作成と内容の取り扱い」の項目において、「2 外国語においては英語を履修させることを原則とする。」というように英語が取り上げられるようになった。また、新学習指導要領での小学校外国語活動においても、英語を取り扱うことを原則としている。

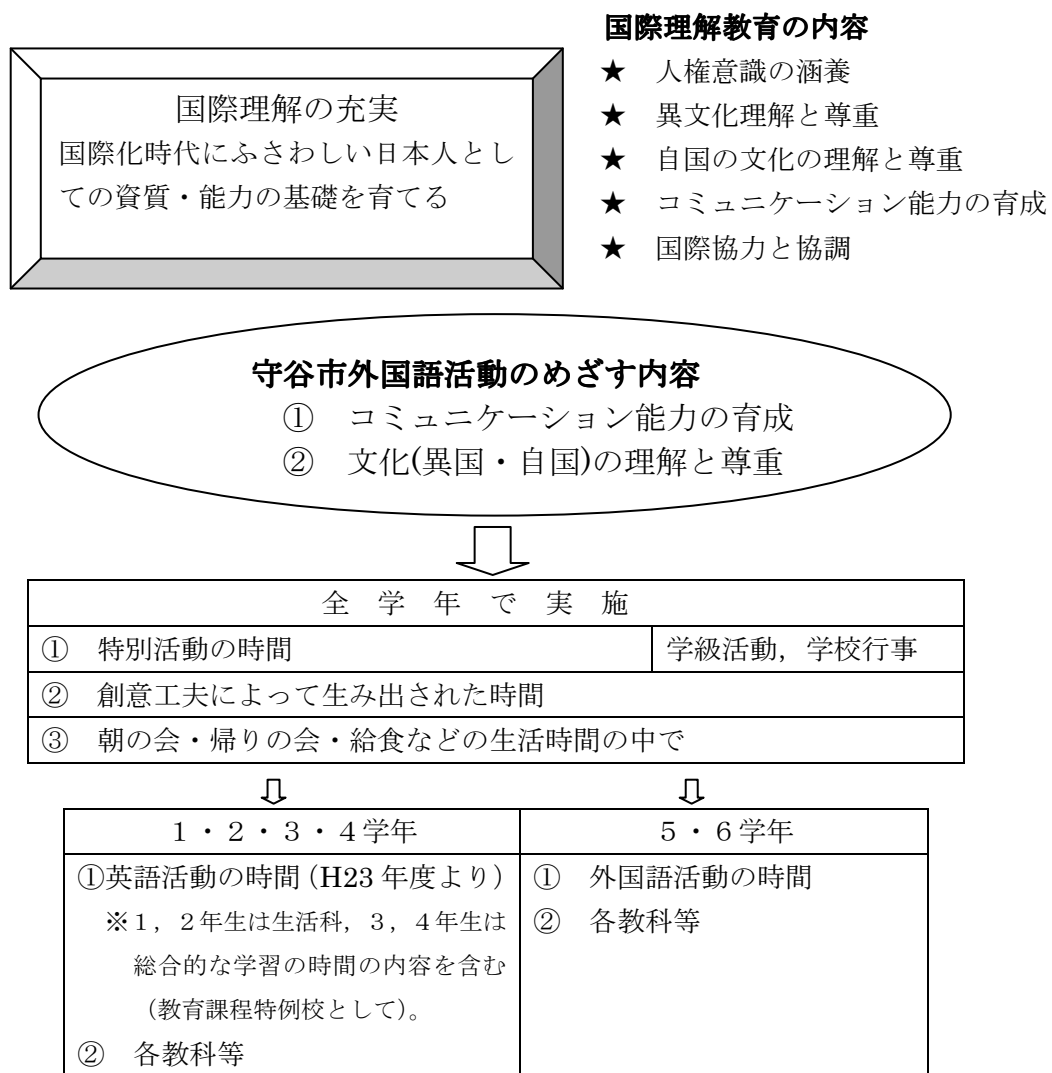
以上のことから、今後小学校における外国語（英語）活動はますますその必要性が高まることが予想され、それに的確な形で応えていくことが求められている。

3 教育課程特例校として

本市では、平成13年度より市内全小中学校にALTを常時配置し、小学校1年生から6年生までの全学年で英語活動・外国語活動の研究実践を行ってきた。各学級とも週1時間実施し、全ての時間においてHRTとALTとのティーチング体制をとっている。これまで低学

年では、教育課程外、中学年では総合的な学習の時間の「国際理解教育」として取り扱ってきた。しかし、平成23年度からの小学校新学習指導要領全面実施に伴い、低学年の授業時数増加による児童の負担増が懸念されることから、文部科学省の教育課程特例校の指定を受けることにした。1, 2年生の生活科, 3, 4年生の総合的な学習の時間の1時間を新たな「英語活動」の時間として設定し、守谷市英語活動の充実を図ることにした。

4 国際理解教育における外国語活動の位置付け



教 科	取 り 入 れ の 視 点
国語	国際的な表現活動の違いを考える。
社会	地域や日本を国際的な立場から見てみる。
算数	筋道を立てて考える方法の違いに気付く。
理科	自然や環境についての国際的な考えを知る。
音楽	外国の音楽に親しむ。
図工	造形や鑑賞を通して、外国の文化を理解する。
体育	世界のスポーツに興味・関心を持つ。
家庭	衣食住の違いを理解する。
道徳	人間尊重の精神、他国の文化や伝統を尊重する態度を身につける。

Ⅱ 英語活動・外国語活動の内容

1 守谷市の英語活動・外国語活動の基本原則

- 守谷市の英語活動・外国語活動は、外国語を通してどれだけ子どもが興味・関心をもって楽しく積極的にコミュニケーションが図れるかを重視する。ここで言うコミュニケーションとは、単に英語で会話ができるという能力だけを問うのではなく、諸活動を通し、友だちやALTとふれ合い、豊かな人間性や社会性を身につけ、国際社会で活躍できる人材育成の意味を含んでいる。
- 守谷市の英語活動・外国語活動は、ALTとHRTが子どもとのコミュニケーション活動を大切にし、子どものコミュニケーション能力を育てていく活動である。
- 守谷市の英語活動・外国語活動は、「聞くこと」「話すこと」に視点を置き、音声による活動を主とするものである。また、この活動は文部科学省の教育課程特例校の指定、及び小中一貫教育「きらめきプロジェクト」の一環として、フォニクス等の発展的な内容を段階的に実施していくものとする。
- 守谷市の英語活動・外国語活動は、外国語に触れることにより、子どもが異文化を理解し、自他の文化を尊重する国際人としての精神を育てていく糧とするものである。
- 守谷市の英語活動・外国語活動は、基本原則を基に、各学校が全職員で協力し合いながら、年間活動計画を立案し実践していくものである。

2 英語活動・外国語活動の目標

守谷市英語活動・外国語活動の全体目標

外国語に触れる体験的活動を通して、外国語を聞いたり話したりすることに興味関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育てるとともに、言語、文化、生活、習慣などに対する理解を深め、国際理解の基礎を培う。

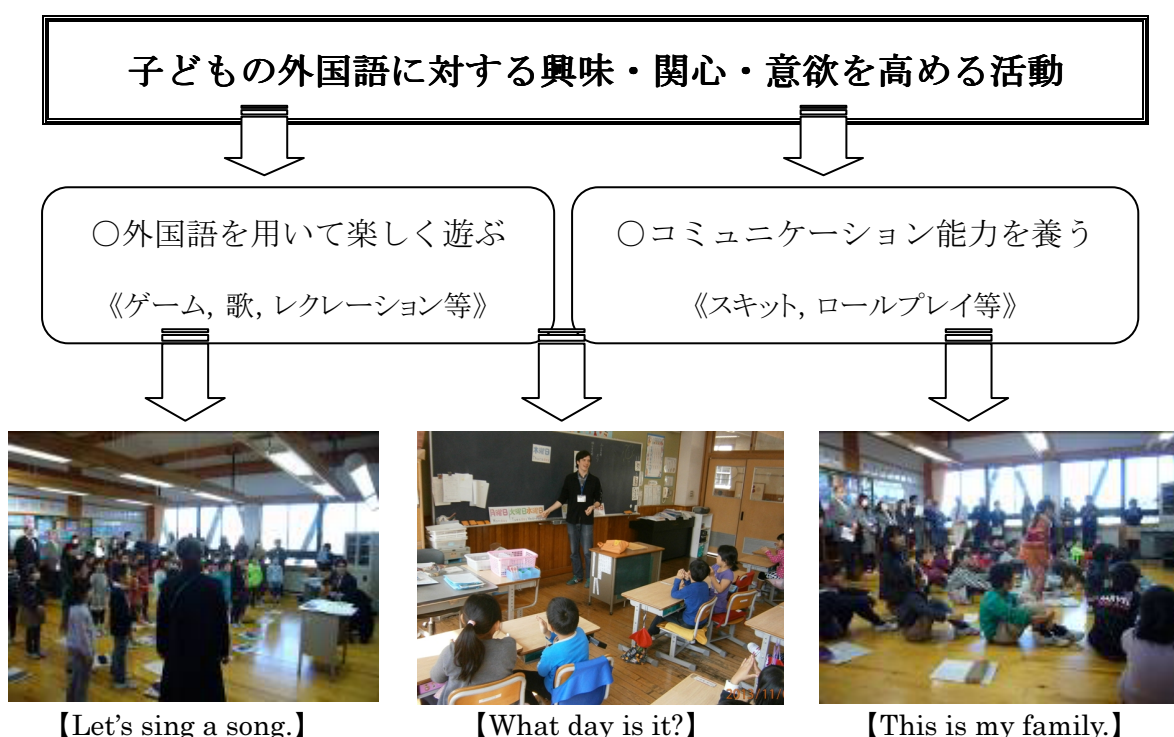
3 活動内容

守谷市の小学校における英語活動・外国語活動は、英語という言葉を通して、日本とは異なる文化を持つ人々と進んでコミュニケーションを図ったり、ゲームや歌、または身近なテーマ中でのコミュニケーション体験を友達と楽しく活動したりする中で、他と積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の素地を養うことを目標としている。

また、自然に英語の音に触れ、無理なく英語を聞き、話すといった英語に慣れ親しむなどの言語や文化の体験的な理解は、同時に国際理解の基礎を培うことであると考えている。

- (1) 守谷市が英語活動・外国語活動を通して目指すねらいの一つ「コミュニケーション能力」については、「聞く」「話す」活動を主として育成していくものとする。
- (2) 主な活動内容については、必ず指導するものではなく、到達すべき内容でもなく、あくまでも学校の特色や学年の実態を把握し、年間計画を立案する上での参考とするものである。
- (3) アルファベットについての指導は、児童の実態に合わせて、小学校6年間で指導してい

- くことが望ましい。但し、ドリル的な指導や教え込みの指導は控えるようにする。
- (4)「書く」活動については、学年の実態に合わせて、「自分の名前を書く」「グリーティングカード作り」程度の内容に押さえておくことが望ましい。但し、「クラブ活動」など時間を通して、児童の興味・関心から判断し「書く」活動を取り入れてもよい。
- (5)「文字」については、教えるのではなく、単語や基本的な文型など掲示板を活用して、視覚的に示すようにする。
- (6) 中学校の外国語教育との連携を考える上では、小学校の英語活動・外国語活動は、児童に外国語や外国文化に対する興味・関心をもたせ、その高まりを中学校の外国語教育につなげ、「耳」から学んだ「聞く・話す」力を大いに発揮させることで、中学校の外国語教育に意欲的に取り組むことができるようにすることが重要である。



[コミュニケーション場面の例]

(ア) 特有の表現がよく使われる場面を設定する

・あいさつ ・自己紹介 ・買い物 ・食事 ・道案内 etc

(イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面を設定する

・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 ・遊び etc

[コミュニケーションの目的の例]

(ア) 相手との関係を円滑にする【呼びかけ, 相づち, 聞き直し (=Social Skill)】

(イ) 気持ちを伝える【礼を言う, 誉める (=Social Skill / =Discourse Skill)】

(ウ) 事実を伝える【(=Discourse Skill)】

(エ) 考えや意図を伝える【(=Discourse Skill)】

(オ) 相手の行動を促す【質問する, 依頼する (=Social Skill / =Discourse Skill)】

4 年間活動計画の作成

(1) 年間活動計画作成の必要性

児童の外国語に対する興味・関心を高め、持続させつつ英語活動・外国語活動の目標を達成させるためには、年間の活動計画が不可欠である。場当たりの活動を中心に進めることは、マンネリ化に陥りやすく、やがて児童は興味を失ってしまう心配がある。

従って、各学校は、守谷市の英語活動・外国語活動における基本的な考え方や全体目標、評価の観点と評価規準に沿って、児童の実態や地域性を踏まえ、学校の特色を生かしながら、年間活動計画を作成していくことが重要な課題になる。

また、単位時間の計画案についても、職員が協力し合い検討し、共に十分理解した上で活動に臨むことが大切である。そして、実践し、その活動が適切であったかどうか常に振り返り、見直し、修正し、記録を残すようにすること（PDCAサイクルの確立）が、児童の積極的な活動につながる要因である。

① 評価の観点と評価規準

評価の観点	観点の趣旨【◆】と評価規準【①～③】
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	◆ 英語を使って、進んで相手と関わり、コミュニケーションの喜びや楽しさを味わう。 ① 相手の話をよく聞き、うなずくなどの反応をしている。 ② 進んで相手と関わり、楽しくコミュニケーションを図ろうとしている。 ③ 知っている（学んだ）言葉やジェスチャーなどを使って、自分が伝えたいことを表現しようとしている。
外国語への慣れ親しみ	◆ 英語を聞いたり、話したりする体験的活動を通して、音声や基本的な表現に慣れ親しむ。 ① 英語のリズムやイントネーションを感じて、積極的に聞いたり、話したりしている。 ② 英語であいさつをしたり、名前を伝えたりしながら、ゲーム等の活動に参加している。 ③ 身のまわりのものや動物などを英語で表現しようとしている。
言語や文化に関する気づき	◆ 英語活動・外国語活動を通して外国に対する関心を高め、日本文化と外国文化の相違点や類似点などについて気付く。 ① 様々な言語に関心をもち、言葉のおもしろさや言語の大切さに気付いている。 ② 様々な国の人との交流を通して、世界には多様な言語や文化があることに気付いている。 ③ 日本文化や外国文化のよさに気づき、それらを受け入れようとしている。

② 年間活動計画作成の留意点

- 守谷市の外国語活動の基本的な考え方を押える。
- 守谷市の活動目標を柱に授業を構成し、評価規準で振り返る。
- 1年間を見通して、変化のある計画を立てる。
- 発達段階を考慮し、無理や重複のない計画を立てる。
- 地域の特性や学校環境を生かす。
- 国際理解や他国の文化に触れる活動を取り入れる。

(2) 外国語によるコミュニケーションに親しむ環境作り

外国語によるコミュニケーションに親しむためには、英語活動・外国語活動の時間以外に、ALTによる教育活動への参加や校舎内外の環境等を工夫することによって、児童への興味・関心を高めていくことができる。

- ① 朝の時間、昼の時間、帰りの時間などの活動に、ALTと一緒に参加しやすいような活動を工夫することが望ましい。
- ② JTE・HRTは、積極的に英語活動・外国語活動に取り組めるよう研修の機会を確保し、関係資料の整備などに心がける。
- ③ JTE・HRTは、定期的に研修を行い英語活動・外国語活動の反省と今後の活動等を検討することが望ましい。
- ④ 英語活動・外国語活動教室の設置、国際理解コーナーの設置など、児童が自由にALTと触れ合える場を確保する。

II その他の取組

1 ALTとあそぼう・話そう

(1) 趣旨

- 守谷市における小学生の国際理解の精神を深めるとともに、国際交流に対する積極的な態度を養う。
 - 外国語活動を通して土曜日の体験学習の場を提供し、充実を図る。
 - 外国語活動を通して、学校・児童・保護者交流、連携を図る。
- ※ 小学校1年生から4年生までは、「ALTとあそぼう」、小学校5、6年生は「ALTと話そう」ということで平成24年度から実施

(3) 対象 守谷市小学生及び保護者

(4) 内容 ALT3人～5人の講師による外国語遊びを中心とした外国語活動

(5) 期日 原則毎月第2土曜日

2 English in Action

(1) 趣旨

- グローバル化に対応した人材育成を目指し、中学生の国際理解の精神を深めるとともに、コミュニケーション能力を養う。
- 活動を通して土曜日の体験学習の場を提供し、充実を図る。
- 活動を通して、学校・生徒・保護者交流、連携を図る。

(3) 対象 守谷市中中学生及び保護者

(4) 内容 ALT3人の講師によるコミュニケーションを中心とした英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）を用いた総合的な活動

(5) 期日 原則毎月第3土曜日 ※平成25年度から実施

3 外国語活動推進委員会

(1) ねらい

- 英語活動・外国語活動の積極的推進とA L Tの有効活用のための研修を実施する。
- 小学校から中学校への外国語活動におけるスムーズな連携のための研修と、協議を実施する。
- 小学校、中学校の授業研究を交互に実施し、研究協議を通して守谷市の外国語活動の充実を図る。

(2) 平成25年度外国語活動推進委員会実施一覧

期 日	内 容	場 所
5月14日(火)	今年度の取組, 各校年間活動集作成	市役所大会議室
7月 9日(火)	小学校授業研究と協議	大井沢小学校
10月 1日(火)	中学校授業研究と協議	守谷中学校
1月17日(金)	小学校授業研究と協議	守谷小学校

4 A L Tミーティング

(1) ねらい

- A L T資質の向上を図る。
- 各校の情報交換と教材研究及び開発。

(2) 平成25年度A L Tミーティング実施一覧

期 日	時 間	場 所
4月 1日(月)	13:00	市役所 中会議室
4月23日(火)	15:30	市役所 小会議室
6月17日(月)	15:30	市役所 中会議室
9月 3日(火)	15:30	市役所 大会議室
11月 5日(火)	15:30	市役所 小会議室
1月 8日(水)	15:30	市役所 庁議室

□ 小学校実践事例 □

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立大井沢小学校

1 はじめに

大井沢小学校では研究テーマを「自ら考える児童の育成」とし、国語科を中心とした言語活動の充実と学習指導の工夫改善を図っている。外国語活動に関するアンケート調査から、本校保護者の多くが小学校1年時からの英語活動実施を好ましいと考えており、歌やゲームなどの楽しい活動を通して英語の力を向上させることを望んでいる。

このことを受け、本校では外国語活動（英語活動）の時間において児童が自ら表現する活動を重視し、活動内容の精選を図った。身に付けた表現や単語を繰り返し、変化を加えながら使うことで定着を図るとともに、児童に身近な題材を取り上げることで表現活動への意欲を高めている。

2 具体的な実践事例

(1) 特例校としての取組

〈低学年〉

「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせる」という生活科の目標に迫れるよう、自分自身のことを英語で表現する活動を多く取り入れた。特に”I like ~.”を用いて自分や家族の好きな食べ物、形、色を表現したり、自分の気持ちを表現したりする活動に重点を置いた。

〈中学年〉

動物、植物、昆虫等を用いたゲームやアクティビティを多く取り入れることで、総合的な学習の時間で行っている地域学習との関連を図った。また児童が関心をもった国について調べる活動を取り入れ、調べたことを発表したり友達に質問をしたりすることで探求的な態度の育成に努めた。

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

〈高学年〉

”Hi, friends!”の活用を図り、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めた。
”Hi, friends!”の内容にとどまらず、発展的なアクティビティを取り入れることで語彙を増やすとともに表現の定着に努めた。

3 学校独自のアプローチ

(1) 朝と給食時の ALT による校内放送

朝、始業前と給食時に ALT が校内放送を行っている。朝はその日の出来事を話したり、児童が元気に過ごせるような言葉をかけたりしている（毎日）。給食時には ALT の体験やアメリカの習慣などのスピーチを短時間で行っている（週1回）。内容をすべて理解できる児童は少数であるが、日常的にネイティブの英語をシャワーのように浴びることで、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができると考える。

(2) 英語クラブにおける活動

月2回実施の英語クラブでは ALT が折に触れて外国の行事や習慣を紹介している。例えば、ハロウィンの時期にはハロウィンについて理解したり、語彙を使用したゲームをしたりするだけでなく、実際にマスクを作って疑似体験をした。外国の行事や習慣への理解を図れるよう、活動内容を工夫している。

4 成果と課題

(1) 低学年から週1時間の英語活動を行っていることや、ALT が常駐していることから、児童は抵抗を感じることなく ALT とコミュニケーションを図ったり、英語で表現したりすることができる。

また、身の回りの物を表す語彙についても豊富であり、ネイティブスピーカーの発音に近づけて発音できる児童も見られる。これは和製英語に触れる以前にネイティブの発音がインプットされるためであると考えられる。普段の学校生活では発表に消極的な児童であっても、英語活動の時間には進んで発表しようとする意欲が見られ、英語を媒体とすることでコミュニケーション活動が活発になった。

(2) 課題

前学年で身につけた表現や語彙が明確であれば、次学年ではさらに豊かなコミュニケーション活動を行うことができると考える。このことから、6年間を見据え、系統性、連続性のある年間計画の整備が必要である。

題材名 「すきなもののなにあに (フルーツパフェをつくろう)」

時間	学 習 活 動	指導上の留意点と評価 (☆) ○ : ユニバーサルデザインを意識した支援 □ : 伝え合う力を向上させるためのてだて	
		HRT・支援 T の指導	ALT の指導
5	1 あいさつをする。 Hello. How are you? — I'm happy. I'm fine. I'm hot. I'm angry.	・ 児童と一緒に元気にあいさつをする。	・ 英語で元気なあいさつをすることで、英語活動への期待を高める。 ・ 正しい発音のモデルを示す。
3	2 全員で歌を歌う。 Head, shoulders, knees and toes	・ 児童と一緒に歌う。 ・ 1回目から4回目は速くしていき、5回目はゆっくり歌う。	・ 思い切り体を動かし、楽しい雰囲気でも歌えるようにする。
5	3 単語や表現の発音練習をする。 grape, apple, peach, strawberry kiwi, banana, melon, lemon orange, pineapple What fruits do you like? I like _____.	★フラッシュカード ・ フラッシュカードを提示しながら前時までに練習した果物の言い方を練習する。 ・ 単語から文へと練習の形を変えながら、本時の活動に必要な表現が言えるようにする。	・ 本時の活動で使う表現はリズムに合わせ、テンポ良く言えるよう手本を示す。 ・ 児童の近くに立ち、一緒に発音することで大きな声で発音できるよう支援する。
10	4 Listen and Touch ゲームをする。 ・ ALT の英語に合わせて床に貼ってある絵カードに手や足を置く。 ・ Please listen carefully. Please touch a _____. (果物) Please touch a _____.	・ ゲームの進め方を ALT と共にデモンストレーションで示し、活動内容がわかるようにする。 ・ 果物のカードを多く用意し、スムーズにゲームを行えるようにする。 ○戸惑っている児童には、正しいカードに触れることができるよう支援する。	★絵カード ・ HRT と共にデモンストレーションをする。 ○英語の表現を十分に理解していない児童も意欲がもてるよう、初めに日本語の言い方に似た発音の単語を出題する。
20	5 Fruits パフェゲームをする。 (1) ゲームをする。 Group A: What fruit do you like? Group B: I like _____. What fruit do you like? Group A : I like _____. A&B : Rock, paper, scissors, one, two, three. Winner : I like _____. (2) できたパフェを発表する。 Everybody: What fruit do you like? Group A: I like _____. I like _____. I like _____. I like _____.	・ 1グループに1セットずつ果物の絵カードを配る。 ・ 2グループの代表がそれぞれフルーツを選び、ジャンケンで勝った児童が相手のカードを獲得し、パフェに加えることができることを確認する。 □ 1人ずつ交代でジャンケンをし、全員が代表となることを確認する。 ・ パフェの容器を描いた紙に絵カードを貼り付けてパフェを完成させる。 ・ 黒板に掲示して、グループごとのパフェを発表しあう。	★カルタサイズの絵カード パフェの器が書かれた用紙 (グループ数分) ・ Fruits パフェゲームを説明する。 □ うまく活動に参加できない児童と一緒にゲームをし、意欲的に取り組めるよう支援する。 ・ グループごとの発表を聞き、できあがったパフェを賞賛する。
2	6 あいさつをする。 Thank you Joan SENNSEL. See you next time. Good bye.	☆友だちや ALT に自分の好きな果物を伝えることができる。(観察・発表) ・ 児童に大きな声であいさつをさせる。	・ 元気にあいさつをし、次時への意欲をもたせる。

題材名 「時間割を作ろう」

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点と評価 (☆) ○：ユニバーサルデザインを意識した支援 □：言語力向上に向けた手立て	
		HRT の指導	ALT の指導
5	1 あいさつをする。 Hello. How are you? — I'm happy. I'm fine. I'm hot. I'm angry.	・児童と一緒に元気にあいさつをする。	・正しい発音のモデルを示す。
3	2 英語の歌を歌う。 Sunday, Monday, Tuesday	・児童と一緒に歌う。	・曜日の確認をしながら、曜日カードを提示する。 ・楽しい雰囲気でもてるようにする。
5	3 教科を復習する。 math, Japanese, science, P.E. social studies, music, English, art and crafts, home economics	・ALT の指示がわからず戸惑っている児童に対しては、日本語で補足説明を行うようにする。 ・うまく発音できない児童のそばに行き、一緒に発音する。	★絵カード ・教科の絵カードを提示し、正しい発音のモデルを示す。
5	4 Key Word ゲームをする。	・ALT と共にデモンストレーションをする。 ・ALT の指示がわからず戸惑っている児童に対しては、日本語で補足説明を行うようにする。	・キーワードを決めて、絵カードを活用しながら、ルールの定着を図る。 ・テンポ良く行うことで英語のリズムや発音に親しませる。
20	5 Battle Ship Game ゲームをする。 ・シートのマス目に○を書き込む。 ・ジャンケンをして先攻、後攻を決める。 ・後攻の児童が” What do you study?” と質問する。 ・先攻の児童は相手の船(○印)がどこにあるかを予想して答える。 ・後攻の児童は自分の表を見て○印があれば×をつける。 ・先攻の児童は自分が尋ねたマス目に相手の情報(○×)を記入する。 ・交互に繰り返して相手の船を全て当てた方が勝ち。 A: What do you study? B: I study [教科] on [曜日].	・ALT と共にデモンストレーションをする。 ・机間指導を行い、日本語で補足説明をすることによってルールの理解が不十分な児童を支援する。 ○ 随時確認できるよう、教科と曜日カード、時間割と絵カードの拡大図、定型文を書いたホワイトボードを提示する。 □ ペアを変えてゲームを繰り返し行うことで、発音の抵抗感をなくし、表現の定着を図る。	★ワークシート ・ワークシートを提示して Battle Ship Game ゲームのやり方を説明する。
5	6 活動の振り返りをする。	・うまく活動できない児童に寄り添い、一緒にゲームをすることで自信をもって表現できるようにする。	・ローテーションの合図を出す。
		☆ 友だちや ALT と進んでコミュニケーションをとりながら時間割を伝え合おうとする。(観察)	
5	7 あいさつをする。 See you next time. Good bye.	・進んで活動したり、ALT の発音を真似て表現したりしている児童を称賛する。 ・児童と共に大きな声であいさつし、次時への意欲をもたせる。	・意欲的に取り組んでいる児童を称賛し、次時への意欲をもたせる。

〈資料1〉



Listen & Touch ゲーム

〈資料2〉



Fruits パフェゲーム

〈資料3〉



できあがったグループごとのFruits パフェ

〈資料4〉



Battle Ship ゲームの例示

〈資料5〉



Battle Ship ゲーム

〈資料6〉



ペアでの発表

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立大野小学校

1 はじめに

本校は単学級なので、A L Tの外国語活動の担当時間が少なくすむ分、外国語活動以外にも様々な活動に積極的に参加してもらい児童が英語に触れる機会を多くしている。休み時間、掃除の時間、給食はもとより、図工・体育などの教科や校外学習にも参加している。児童が、A L Tと共に学んだり、遊んだりすることを通して、外国の言語や文化に興味・関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育つように外国語活動の授業や校内環境の工夫を行ってきた。

2 具体的な実践内容

(1) 特例校としての取り組み

<低学年>

- ・歌や遊びなどの活動を通して、楽しみながら外国語を聞いたり話したりした。
- ・あいさつを覚えたり、ゲームをしたりしながら、友達や先生とコミュニケーションを図った。
- ・クラスルームイングリッシュ（単語）

<中学年>

- ・ハロウィンなど外国の文化や食べ物の英語に興味をもたせようカードゲームを行った。
- ・インタビューゲームや自己紹介などで自分の気持ちを表現し、コミュニケーションを図った。
- ・クラスルームイングリッシュ（文）

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

<高学年>

- ・Moriya Communication Challenge の 1, 2 を毎回授業の初めに行った。
- ・世界の文化や習慣を写真やビデオで学びグループごとに感想などを発表した。
- ・フォニックスの聴き取り練習と単語をマッチさせながらアルファベットを書く練習を行った。
- ・クラスルームイングリッシュ（文章）

3 学校独自のアプローチ

- (1) 階段や掲示板に季節や天候などを外国語表記で示し、英語に対する興味を高めた。掲示物として表示することで普段の生活の場から外国語に触れさせることがねらいである。
- (2) 教師の指示は、Stand up.Raise your hand.Be quiet, please 等。教師の指示だけでなく、児童同士で Here you are. Thank you.You're welcome.などを使えるように毎時間練習を行った。
- (3) 導入(Greeting)→準備(Warm-up)→活動(Activity)→まとめ(Closing)といった流れで進めた。導入は How are you? 以外に、高学年は What day is it? Today is (January 15th, 2014), How is the weather today?等と語彙を増やすようにした。
- (4) 全校集会で今月の生活目標に"Fight (x3) the cold (x3) Let's (x3) be bold (x3)"のチャンツを取り入れ、外国語活動の時間にも実施した。

4 成果と課題

- ・児童と保護者のアンケート結果から「英語が楽しいからもっと勉強したい」「世界についてもっと知りたい」「英語の時間を増やしてほしい」など英語活動に対して意欲的な回答が寄せられた。
- ・児童は自分の気持ちを「I like ~」, 「I can ~」などを使って自然に表現できるようになり、英語の時間だけでなく、学校生活全般において英語で気軽に話すようになった。また、保護者の中にはA L Tを見つけると英語で話しかけるなど、A L Tが地域に馴染んでいることは好ましい。
- ・低・中学年は歌やゲームに喜んで取り組むが、高学年は簡単なゲームでは飽きてしまうので、楽しみながら英語学習を行い、中学校につなげていく工夫を検討していきたい。
- ・Hi Friends は高学年で使用しているが、低学年からも十分楽しみながら使えるので導入したい。
- ・英語に限らず、地域のゲストティーチャーをお招きして、世界の言語や文化に触れさせる機会をもつなど自然な形で国際感覚が身に付けられるように指導計画を見直していきたい。

大野小学校 第2学年外国語活動指導案（英語活動案）

指導者 H R T 西島 稚佳子

A L T エリン・ファウラー

題材名 「 I a m ～ .」

学習活動及び内容	指導・支援上の留意点（㊦は評価）	
	H R T	A L T
1 はじめのあいさつをする。 Good morning!	・児童が元気よく挨拶できるよう一緒に挨拶をする。	・元気がない時は挨拶を再度行い、最初の活動を大切にする。
2 「Itsy-bitsy Spider」を歌う。	・児童の歌っている様子を見ながら、元気に歌えるように励ます。	・ジェスチャーを見せながら、ゆっくり歌う。
3 いろいろな動物（昆虫）の名前を知り、発音の練習する。	・A L Tの発音をよく聴き、口の動かし方をよく見て、繰り返し練習するように助言する。	・絵カードを使いながら、大きくはっきりとした声で手本を示す。
4 いろいろな昆虫の英語を言いながらジェスチャーをする。(Simon Says)	・模範でジェスチャーをし、理解を助け、意欲を高める。	・英単語を言いながらジェスチャーを示す。
5 じゃんけんゲームをする。	・間違えてもかまわないことを話す。	・H R Tとモデルのゲームを行い、発音練習を繰り返す。
6 すごろくのゲームをする。	・A L Tとモデルのゲームを行い、ルールを確認する。	・H R Tとモデルのゲームを行い、発音練習を繰り返す。
7 本時のまとめとふり返しをする。 ・ふり返しカードに今日の学習の感想を書き、自己評価をする。	・児童の様子を観察し必要に応じて日本語で補助をする。	・ルールが理解できたかどうかを確認しながら発音練習を繰り返す。
7 終わりのあいさつをする。 See you next time. Thank you.	・英語だけの活動を支援する。 ・やり方を確認しながらゲームの説明をする。	・カードを配って、終わった順に集める。
	㊦ 英語の音声や表現に慣れ親しみながら自ら進んでA L Tや友達と活動することができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度；観察，ふり返しカード)	
	・テーマを黒板に書いて児童の様子を観察する。	・カードを配って、終わった順に集める。
	・元気よくあいさつし、次時の学習への意欲付けになるようにする。	

大野小学校 第3学年外国語活動指導案（英語活動案）

指導者 H R T 熊田 昌人

A L T エリン・ファウラー

題材名 「 D o y o u l i k e ～ ? 」

学習活動及び内容	指導・支援上の留意点（㊦は評価）	
	H R T	A L T
1 はじめのあいさつをする。 Good morning!	・児童が元気よく挨拶できるように一緒に挨拶をする。	・元気がない時は挨拶を再度行い、最初の活動を大切にする。
2 「If you're happy and you know it.」を歌う。	・状況を確認しながらCDの準備や操作をする。	・ゆっくりと発音して歌詞を覚えられるようにする。
3 いろいろなスポーツの名前を知り、発音の練習する。(Simon Says)	・A L Tの発音をよく聴き、口の動かし方をよく見るよう助言する。	・絵カードを用いて、様々なスポーツの名称を英語で発音し、手本を示す。
4 ジェスチャークイズをする。 ・クイズのルールを知る。 ・グループごとに指定されたスポーツのジェスチャーを考える。 ・クイズを行う。	・模範でジェスチャーをし、理解を助け、意欲を高める。 ・児童の様子を観察し必要に応じて日本語で補助をする。	・児童の状況を把握し、自信をもってコミュニケーションでできるよう支援を行う。
5 インタビューゲームをする。 (1) ゲームのルールを知る。 ・Do you like ～? の発音練習をする。 ・質問されて、好きな場合は「Yes, (I do.)」 苦手な場合は「No, (I don' t).」で答える。 ・ワークシートの一つの欄に、自分が質問したいスポーツの名称を記入する。	・ゲームのデモンストレーションを行い、ルールを確認する。 ・ワークシートの記入の仕方について必要に応じて助言する。	・ルールが理解できたかどうかを確認しながら発音練習を繰り返す。
(2) ゲームを行う。(隣の人→自由に) ・インタビューゲームに答えてくれた友達の名前をワークシートに記入し、お互いに質問をし合う。 ・質問後、ワークシートに○×を記入する。 ・ワークシート全部に名前が入るようインタビューを繰り返し行う。	・自ら進んで話しかけられない児童には、一緒に発音したり、会話の相手になったりする。 ・元気にやりとりができた児童を賞賛する。	・やり方を確認しながらゲームの説明をする。 ・表現の仕方が分からない児童には、繰り返し手本を示したり一緒に発音したりする。
6 本時のまとめとふり返しをする。 ・ふり返しカードに今日の学習の感想を書き、自己評価をする。	㊦ 英語の音声や表現に慣れ親しみながら自ら進んでA L Tや友達と活動することができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度；観察、ふり返しカード)	
7 終わりのあいさつをする。 See you next time. Thank you.	・ふり返しカードへの記入の様子を観察しながら、児童の活動を称賛する。 ・次時への意欲が高揚するよう、元気に挨拶を交わす。	

資料



1年授業



2年授業



4年授業



5年授業



掲示資料



体育の授業参加



全校集会・チャンツ



校外学習参加

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立高野小学校

1 はじめに

小学校における外国語（英語）活動は、英語という言葉を使って、日本とは異なる文化をもつ人々と進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことが大切であると考えます。

その第一歩として、児童が英語で歌を歌ったり、ゲームをしたりして楽しく活動する中で、自然に英語の音声に触れ、慣れ親しむことに力を入れてきた。児童たちが休み時間に英語の歌を歌ったり、A L Tに英語で話しかけたりする姿を見かけると、英語という言葉に慣れ親しんでいるという効果を感じると同時に、さらに広げていきたいと思う。

2 実践

- ・本校では、毎週火曜日をイングリッシュデイとして、朝の会、授業や給食の号令、帰りの会を英語で行っている。昼の放送ではA L Tが英語でクイズを出して、正解した児童にシールを与えている。
- ・校内の掲示板に英語コーナーを作り、各学年の授業で使った絵カードやワークシート、外国の文化に関するものを掲示し、たくさんの児童たちに広めている。
- ・給食時には、A L Tが教室で、児童たちのグループに入り、給食を食べながら交流を深めている。
- ・A L Tをより身近な存在として意識付けるために、全校集会の進行を教務主任とともにA L Tが英語で行っている。
- ・授業参観の時には、積極的に英語の授業を公開し、保護者にも英語教育に関心をもってもらえるようにしている。

3 特例校としての取組

<低学年>

- ・身近な人々、社会とのかかわりに関連する取組として、あいさつ、自己紹介でコミュニケーションを深めるための表現を学習し、様々な方法で繰り返し表現してきた。
- ・自然とのかかわりに関連する取組として、毎日の天気の状態、好きな動物、果物、野菜について問答する時に必要な表現を学習し、様々な方法で表現してきた。

<中学年>

- ・外国で人気のある食べ物を英語でA L Tに尋ね、ワークシートにまとめた。また、日本の食べ物と比較することで、国際的な知識を深め、探究的な学習ができた。
- ・ハロウィン、クリスマスなどの外国の文化について、クイズ形式でワークシートにまとめて、日本の文化と比べることができた。また、日本の特徴をA L Tに伝えることができた。

4 成果と課題

○ 成果

- ・同じ英語を、異なるパターンの活動に複数回取り入れることで、何度も繰り返し触れることができ、児童が日常生活でも自然に英語で表現できるようになってきた。
- ・全校集会などでもA L Tにかかわる機会が増えたことで、英語の音声に慣れ、耳から入った英語を真似して表現しようとしている児童が増えている。

● 課題

- ・学年の発達の段階を考えたゲームやクイズなどの活動内容の見直しが必要である。
- ・ゲーム・クイズなどの学習について、ゲームに夢中になり、英語によるかかわりを忘れそうになることがあったので、「英語を使って」という意識を徹底させたい。

高野小学校 第3学年外国語活動案（英語活動案）

授業者 H R T 寺田 茂雄

A L T Luzedar Kyle

題材名「動物の名前を学ぼう」

学習内容・活動	指導上の留意点・評価	
	H R Tの指導	A L Tの指導
1 あいさつをする。 Hello. How's the weather? What day is it today?	・児童と一緒に元気にあいさつし、明るく楽しく学習できる雰囲気作りに努める。 ・質問が理解できていない児童には個別に支援する。	・ピクチャーカードなどで理解しやすくさせる。
2 歌を歌う。（資料1） What's this?を使って質問したり，答えたりしよう。	・児童と共に楽しく歌い，明るい雰囲気を作る。	・ジェスチャーを交えて英語の歌を分かりやすく歌う。
3 ものあてゲームをする。 （1）机の上の箱に入っているものを英語で質問しながら当てていく。	・チームについては，友人関係に配慮して編制する。 ・児童の中に入ってゲームに参加し，理解を促す。 ・理解が不十分な児童に対しては，その児童の状況に応じて支援する。	・質問の仕方がわからない時は模範を示し，理解を促す。 ・英語とジェスチャーで児童に伝えていく。
（2）チーム対抗でもの当てゲームをする。少ない質問で答えられたチームの勝ちとする。（資料2）	・ゲームの目的を確認する。日本語は使わないで，英語でのやりとりで答える。 ・表現に困った時は，事前に用意したワークシートを生かすように指示する。	・はっきりした声でやりとりができていないチーム，英語だけでやりとりができていないチームを称賛し，児童の意欲を喚起する。
4 インタビューゲームをする。 （1）デモンストレーションを見る。	・説明は簡潔にする。日本語は使わず英語とジェスチャーで伝える。	・ジェスチャーやカードなどで理解を促す。
（2）友だちとの英語のやりとりを通して，答えをシートに記入する。（資料3）	・児童の中に入って，個々の理解を確認する。	・インタビューに加わり，たくさんの児童と英語でのやりとりを行う。
評 友だちに“ What's this? ”を使って質問したり，答えたりすることを楽しもうとしている。（観察・ワークシート）		

高野小学校 第4学年外国語活動案（英語活動案）

授業者 H R T 国分 隆行

A L T Alexander Webster

題材名「欲しい物，したいことを言ってみよう」

学習内容・活動	指導上の留意点・評価	
	H R Tの指導	A L Tの指導
1 あいさつをする。 Hello. How's the weather? What day is it today? 2 名札探しゲームをする。 (資料4) (1) デモンストレーションを見る。 (2) 2名の児童が実際に英語でやりとりをし，全体に見せる。 (3) 自分の名札を見つけるまで友だちとの英語のやりとりを続ける。 3 4人程度の小グループになり，I want・・・の表現を用いたゲームをする。 (資料5) ルール・・・ボールを持ってひとりずつI want・・・を表現していく。音楽が止まった時にボールを持っていた人が座っていく。最後まで立っていた人の勝ちになる。 4 ALTが言った場所をI want to go to・・・を使って英語で表現し，ビンゴボードを完成させる。 (1) ピクチャーカードで練習する。(資料6) (2) 発声しながらビンゴシートを完成させる。	・児童と一緒に元気にあいさつし，明るく，楽しく学習できる雰囲気作りに努める。 ・質問が理解できていない児童に個別に支援する。 ・話すスピードに配慮する。また，ジェスチャーも交えて理解を促す。 ・理解が不十分な児童に対しては，その児童の状況に応じて支援する。 ・児童の中に入りながら，英語でやりとりができているか確認する。 ・説明は簡潔にする。 ・できるだけ英語とジェスチャーで伝えていく。 ・児童たちのグループに入り，正しい表現をしようとしているかチェックする。	・リズムよく発音できるように模範を見せる。 ・自然なリズムとジェスチャーで，児童に関心をもたせる。 ・代表の児童のよいところを称賛し，自信をもたせる。また，全体のモデルとする。 ・よい表現ができている児童を紹介する。 ・ジェスチャーなども交えて，児童の興味・関心を高める。 ・A L Tもゲームに加わり，児童の意欲を刺激する。 ・ピクチャーカードを使って表現しやすくさせる。 ・体の動きでイントネーションを身に付けさせる。
	評 積極的に英語で欲しい物を表現しようとしている。 (観察)	



資料1 英語の歌



資料4 名札さがしゲーム



資料2 ものあてゲーム



資料5 I want・・・を使ったゲーム



資料3 インタビューゲーム



資料6 体の動きで行きたい場所を表現する

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立守谷小学校

1 はじめに

本校の外国語活動（英語活動）では、守谷市の目標である「外国語に触れる体験的な活動を通して、外国語を聞いたり話したりすることに興味関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力を育てるとともに、言語、文化、生活、習慣などに対する理解を深め、国際理解の基礎を培う。」をもとに、英語という言語を通して日本とは異なる文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図れるようにするために、歌やゲームを通じた交流、テーマを設定したコミュニケーション活動や異文化理解などを楽しく行っている。

2 具体的な実践

(1) 特例校としての取組

<低学年>

英語活動では、具体的な活動や体験、言語活動を重視した「伝え合い、交流し合い、気付き合う」ことに重点をおいて取り組んできた。その中で、身近な人々との関わりにおいては、誰とでも仲良くなるために英語で自己紹介を行った。また、「自分の家族の紹介」での活動では、「grandfather, grandmother, father, mother, sister, brother」の名称をオリジナルソングを使うことによって抵抗なく学習することができた。コミュニケーション活動においては、自分の家族を友達に紹介したら2ポイント、ALTやHRTに紹介した場合は4ポイントにするなどゲームを取り入れて児童の意欲を喚起した。社会、自然との関わりにおいては、いろいろな野菜や果物を好きか嫌いかを英語で質問したり答えたりするなど表現力を高めた。

<中学年>

総合的な学習の時間のねらいに迫った取組としては、異なる文化や言語の違いを歌やゲームを通して日本文化との違いを理解することができた。ハロウィンやクリスマスのテーマでは、ALTの母国での様子を知りスケールの大きさに驚いた。また、自分たちの住んでいる町の歴史や文化を調べていく中で、夏祭りや収穫祭があったりして、国は違えども似たようなお祭りがある事を知ることができた。

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

<高学年>

高学年では、ほとんどの児童が外国語活動の時間を楽しみにしており、活動時間は全て英語で行っている。始めは戸惑う児童がいたが、回を重ねるごとに慣れ楽しく学習している。「できることを紹介しよう」では、canを使って友達にインタビューしたり、自己紹介をしたりしてコミュニケーション活動を意欲的に行った。

3 学校独自のアプローチ

(1) ランチタイムに英語の歌を放送し日頃より英語の歌に慣れ親しむ事により、英語の歌が流れると口ずさむ児童が増えた。

(2) 児童集会では英語クラブによる「Where is the Monster?」の劇やハロウィンの時期には、休み時間にハロウィンの衣装を身に付けて、各教室を回って「Trick or treat」ゲームなど行った。

4 成果と今後の課題

過日、全校児童を対象に外国語活動（英語活動）のアンケート調査を実施した。児童の約96%が「活動が楽しい。」と答えた。また、「英語を話せるようになりたい。」と思っている児童が約94%であった。児童の外国語活動への期待は大きく意欲が感じられる。この意欲を維持し更に高められるように研修を重ねていきたい。

単元名 「家族を紹介しよう」

配時	学習活動及び内容	支援と評価 (※評価)		
		HRT 1	HRT 2	ALT
10	1 あいさつをする。	・児童と一緒にあいさつをする。	・児童と一緒にあいさつをする。	・児童と一緒にあいさつをする。
	2 ウォーミングアップをする。 (1) Q and A “How’s the weather?” “How are you?” “What’s this?” (2) Sing a song (3) Phonics 「自分の家族」を紹介しよう。	・答えられない児童や質問が分からない児童に対して、英語とジェスチャーで支援する。 ・答えられた児童に対し称讃する。 ・一緒に歌を歌い、活動意欲を盛り上げ次の活動につなげる。	・答えられた児童に対し称讃する。 ・質問が分からない児童に対して、アドバイスする。 ・活動についていけない児童に対して寄り添い気持ちを安定させる。	・児童に分かりやすく質問をする。 ・答えられた児童を称讃する。 ・ALTの真似のまねをしながら、発音する。
15	3 「Who’s this?」ゲームをする。 grandfather, grandmother, father, mother, brother, sister ・imagination game ・line game ケビンT : A Team ALT : B Team ALT : C Team ALT : D Team	・ALTと一緒にデモンストレーションをして、やり方を知らせる。 ・ジェスチャーをしたりして、雰囲気をもたせる。	・不安そうに見ている児童や答え方が分からない児童に対して、寄り添い支援する。 ・分からない児童に対して、最初の音声を教え、推測させる。 ・人数の少ない列は調整する。	・HRTと一緒にデモンストレーションをして、やり方を知らせる。 ・カードの一部を隠し、見えた部分から推測し誰かを当てる。 ・発音できない児童に対してサポートする。
10	4 グループごとに「自分の家族」を紹介する。	・ALTとHRT 2と一緒に家族の紹介の仕方を説明する。	・HRT 1とALTと一緒に家族の紹介の仕方を説明する。	・HRT 1とHRT 2と一緒に家族の紹介の仕方を説明する。
	5 みんなに「自分の家族」を紹介しよう。	・自分のグループ以外の人に紹介し、聞いてもらった人にチェックをもらうように説明する。 ※はっきりと自分の家族を紹介している。(活動の様子)	・説明が分からない児童に対して、支援していく。 ※はっきりと自分の家族を紹介している。(活動の様子)	・はっきりと自分の家族を紹介できた児童に対し称讃する。
5	6 本時を振り返り、あいさつをする。	・振り返りカードを書く。 ・称讃の言葉をかけ次時への意欲を高める。	・はっきりと自分の家族を紹介できた児童に対し称讃する。	・本時の活動に対して称讃のコメントをする。 ・終わりのあいさつをする。

守谷小学校 第6学年 外国語活動

授業者 H R T 藤原 幸子

A L T ケビン チャング

題材名「オリジナルの物語を作ろう」

配時	学習活動及び内容	支援と評価 *評価	
		H R T	A L T
2	1 あいさつをする。 Good morning. I'm fine , thank you.	・児童と一緒に元気にあいさつをし、歌を歌う。 Good morning. How are you?	・児童にあいさつをし、一緒に歌を歌う。 Good morning. How are you?
	2 ウォーミングアップをする。 (1) Communication Challenge No. 2, 3 ・ What day is it? How's the weather? ・ What sport do you like? Do you like Soccer ? ets. . . (2) Phonics (a, e, i, o, u) 「オリジナル桃太郎」の劇の発表会を開こう。	・戸惑っている児童に対して、補足したり、励ましたりする。 ・児童一人一人の視線や表情から理解を確認する。	・クラス全員ではなくて2列のみ指定 Communication Challenge を行う。 ・始めは CD を聴き、何度か繰り返し、音に慣れさせていく。
5	3 グループごとに劇の練習をする。 ・グループの目標を確認する。	・各班を回り、自信をもって表現できるように励ます。	・各班を回り、表現の仕方など戸惑っている児童に対してアドバイスをし、自信をもたせる。
30	4 グループごとに、オリジナル「桃太郎」劇を発表する。 ・1班～8班までの発表 ・それぞれの班のよかった所や真似をしたいと思った所などを鑑賞カードに書く。	・友達の発表しているときの、鑑賞の仕方を確認する。 ・児童の発表を見守る。 ・発表した児童に対して称讃する。 *気持ちを込め、ジェスチャーをつけて表現している。 (活動の様子) ・称讃の言葉をかけ、次時への意欲を高める。	・発表した児童に対して称讃する。
	5 本時の振り返りをする。 ・振り返りカードを書く。		・本時の活動に対して称讃のコメントをする。
3	6 終わりのあいさつをする。	・終わりのあいさつをする。	・終わりのあいさつをする。

活動の様子：2年生 《自分の家族を紹介しよう》



ALT に自分の家族の紹介をしている



オリジナルソングを歌っている

活動の様子：6年生 《オリジナル桃太郎の劇》



鬼ヶ島に行って鬼退治をしている場面

授業で使ったプリント

『自分の家族を紹介しよう。』ポイントカード
「聞いてもらった人にサインをもらおう」
2— () Name ()

*友達にしようかいした場合は 2ポイント
*ALTにしようかいした場合は 4ポイント

自己紹介で使用するポイントカード

[illegible]

台本作りに使用したもの

1 はじめに

本校では、守谷市の外国語活動（英語活動）が13年目となり、さらに小中一貫を目指しての教育を行うということを全職員が認識し、活動に取り組んでいる。これまでの「外国語に触れ」て「楽しさ」を感じるだけでなく、活動したことを発信するにはどうしたらよいかを考えた授業展開を行っている。

2 具体的な実践内容

（1）特例校としての取組

〈低学年〉生活科の目標である「人とのかかわり」と関連させ、コミュニケーション活動を行う際の声の大きさ、アイコンタクト、表情などの基本的な要素を中心に取り組んでいる。英語に触れるのが初めてである児童がほとんどなので、あいさつや色、数などをゲームを中心に活動を行った。ゲームの勝敗に関わらず、英語が楽しいという感覚が得られるよう、学級担任による励ましや称賛が重要であった。

〈中学年〉低学年での活動を踏まえ、さらに **Hi, friends!** との活動内容につながる表現を目標に活動を行った。低学年で習得した表現をさらにレベルアップさせ、ペアやグループでの活動を充実させることができた。総合的な学習の時間では、低学年と同様、「人とのかかわり」を中心に探究活動に取り組んでいる。その中で、相手の気持ちを推し量りながら質問したり、対応したりするという活動を行っているのだが、英語でコミュニケーションを行う時も、声のかけ方や質問の仕方、表情も大切であることを伝えながら活動に取り組むことができた。

（2）小中一貫教育の視点を意識した取組

〈高学年〉中学生によるインタラクティブフォーラムに参加できたことは、児童の意欲につながった。中学生が行っている会話を聞き取れた、という児童が多く、「自分も話してみたい」、「参加したい」というやる気につながり、外国語活動の時間がさらに楽しみな時間になった。中学校とのつながりを意識させるために、活動する基本表現が中学校〇年生で詳しく学習する内容だということを学級担任が伝えた。そのことにより、表現をしっかりと覚えようという児童が増えていった。6年生の2学期後半からはフォニックスを導入した。6年間の活動で、聞く力がついていて、日本人が苦手とする2つの聞き取りがスムーズにできるようになった。

3 学校独自のアプローチ

（1）イングリッシュルームの活用…これまで教室で行っていた英語の授業を、イングリッシュルームで行うことで、環境が変わり、英語で話そう、英語を聞き取ろうという意欲につながった。また、写真や地図、ポスターを活用することで、異文化を知ることにつながった。

（2）英語ポスト…ALT への手紙を書き、ポストに投入すると、返事が返ってくるシステムである。低学年でも、学級担任の助けを借りて文字や絵を書いてメッセージを書く姿が見られた。英語で返事がもらえることで、「コミュニケーションができた」という満足感につながった。

（3）コミュニケーションチャレンジの取り組み…6年生が対象であるが、内容を廊下に掲示することで、全学年が知ることができるようにした。他学年でも、十分チャレンジできる内容だ、と知ること、6年生になったらチャレンジするぞ、という意欲付けをしている。

4 成果と課題

イングリッシュルームでの活動を通して、日本語を使わずに英語だけで活動を行おうという意識が高くなった。ペアやグループの活動では、つい日本語を使ってしまうたり、ワークシートを埋めることに夢中になってしまったりする児童が多かったのだが、パターン・プラクティスをしっかり行うことで、それを使って会話を進めることができるようになった。

今後の課題は、全職員が9年間という流れを意識し、その学年で身につけさせたい表現を定着させて行くことである。また、英語が教室内だけで使われるものではなく、日常生活の中で使えるものだという意識を高めるため、GTを招いての英語活動にも力を入れていきたい。

題材名「When's your birthday?」

時間	学習活動・内容	○教師の支援 ⑦評価 ☆配慮する児童への手立て 太字 本時の工夫点	
		HRT	ALT
5	1 あいさつをする。	○一緒に活動し、楽しく学習する雰囲気を作る。	○曜日、天気などの挨拶を行う。
5	2 ウォーミング・アップ ・じゃんけんキング ・What's your name? ・What color is it? ・Touch your ～.	○児童1人を選び、残りの児童に質問させる。 ○児童1人対残りの児童でじゃんけんを行い、さらに1人を選ばせる。 (資料1) ○学習内容を確認させる。 ○聞き取れない児童や、発音できない児童に声をかける。 ○ワークシートを配布し、デモンストレーションを行う。 (資料2)	○前回までの活動内容から、何を質問するかを全体に知らせる。 ○勝ち残った児童に質問をする。
	3 本時の表現を確認する。 January ～ December		○1月から12月までの月日の言い方を、カードを見せながら練習させる。
5	① ドリル	○ワークシートを配布し、デモンストレーションを行う。 (資料2)	○ゲームのやり方をHRTとデモンストレーションをする。
5	② チック タック トー ・ペアで月を題材にした三目並べを行う。	⑦ 相手の言った月を正しく聞き取ろうとしている。 ○th にかわる数字に注意させて練習させる。	○ペアでのゲーム形式で発話量を増やす。
10	③ ナンバーゲーム ・1st～31stの練習を行う。 ・5人グループでゲームを行う。	○1st～31stまでの数字を好きな所まで言い、21stを言ったら座ることを知らせる。(資料3) ☆やり方がわからない児童に個別に声をかける。	○first, second～thirtyfirstまでの言い方を復習させる。 ○ゲームのやり方を説明する。
10	④ インタビューゲーム ・When's your birthday? ・It's June 14th.	○デモンストレーションをする。 ⑦ 相手に積極的に質問したり、答えたりしようとしている。 ☆質問の仕方がわからない児童に個別に教える。	○勝ち残っている児童には称賛の声をかけ、座っている児童には励ましの声をかける。 ○ワークシートを使い、相手に誕生日を聞くインタビューゲームを行うことを説明する。
4		○反省カードへの記入により、活動を振りかえさせ、次時の意欲につなげさせる。	○2つの練習をもとに、本時の目標となる対話をゲーム形式で行わせる。 (資料4)
1	4 自己評価		○元気にあいさつをする。
	5 終わりのあいさつ		

題材名「Where do you want to go?」

時間	学習活動・内容	○教師の支援 ㊦評価 ☆配慮する児童への手立て 太字 本時の工夫点	
		JTE	ALT
5 10 5 20 4 1	1 あいさつをする。 2 ウォーミング・アップ ・フォニックス 「A,E,I,O,U,B,P」の復習 「V,F」の導入 3 前時の復習をする。 ・写真を見て、国名を発表する。 4 本時の表現を確認する。 I want to go to ～. I want to ～. ① カードゲーム ② インタビューゲーム ・相手に行きたい国について尋ね、聞いたことをメモする。 ・聞かれたことについて、英語で答える。 ③ じゃんけんゲーム じゃんけんをして役割を決め、質疑応答をしながら王様をめざす。 5 自己評価 6 終わりのあいさつ	○一緒に活動し、楽しく学習する雰囲気を作る。 ☆音声がうまく聞き取れない児童に個別に声をかける。(資料5) ○穴から見える色や模様をヒントにさせ、英語での国名を答えさせる。 ○学習内容を確認させる。 ○ゲームがスムーズに行えるように、インタビューの仕方をデモンストレーションする。 ㊦相手にインタビューしたり、答えたりしている。 ☆戸惑っている児童に個別に声をかける。 ○短時間でたくさんの発話させるよう、相手を見つめる手助けをしたり、勝った児童を称賛し競争意識をもたせる。 ○反省カードへの記入により、活動を振りかえさせ、次時の意欲につなげさせる。	○曜日、天気などの挨拶を行う。 ○文字と音声の違いを聞き取らせる。 ○カメラに見立てた箱に国旗を入れ、国をあてさせる。 ○カードゲームのやり方を指示する。 ○ゲーム形式で復習をする。 ○本時の表現を使い、インタビューゲームのやり方を説明する。 ☆うまく英語で質問できない児童にお手本を見せる。 ○活動内容を英語で説明する。 ○積極的に発話している児童を称賛する。 ○元気にあいさつをする。



(資料 1)



(資料 2)



(資料 3)

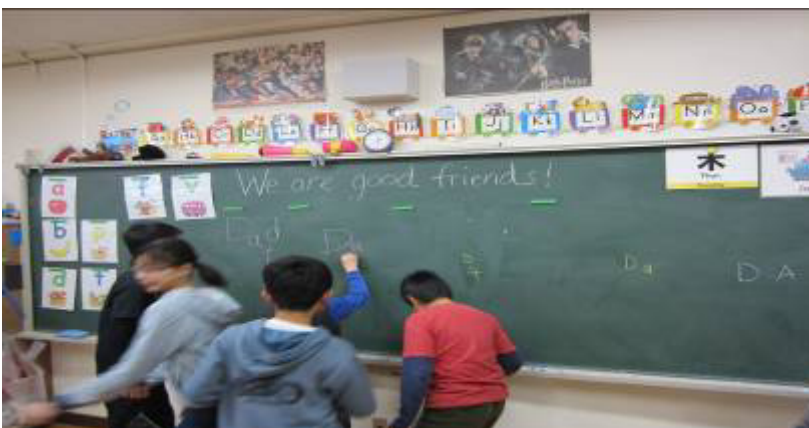
SAKAGUCHI RIMA

Interview

インタビュー

名前	年齢	学年
HINANO	2	12
MOE	7	22
KOYOMA	7	29
YUUKA	9	25
MISAKI	10	17
RIKA	10	29
ROJI	4	16
MIKI	8	26
HAYATO	12	18
GENA/KI	12	22
EDZO	13	29
SADHI	10	6

(資料 4)



(資料 5)

題材名 「Do you like ～？」

時間 (分)	学習活動・内容	指導上の留意点（◎は評価の観点）	
		HRT	ALT
1	1 あいさつをする。 Good morning. How are you? I'm__.	・ALTとペアになりあいさつの見本を示す。	・全体に挨拶をする。 ・まずALTが児童に質問し次に児童が教師に質問する。
4	2 ウォームアップのゲームを行う。 ・ALTとの実際のボールを使ってのあいさつキャッチボールゲームをする。ALTからの英語のあいさつと共にボールが飛んで来たら、児童はそのボールを受け取って英語であいさつに答える。	・ルールの説明を日本語で補足する。 ・英語を話すことに対して消極的な児童に対して支援にあたる。 ・ゲームの際にルールを理解できない児童には、ルールを説明し、一緒に活動する。 ・児童と一緒に楽しく練習する。	・あいさつのキャッチボールゲームをすることを伝える。 ・ボールが飛んで来たら、英語のあいさつで答えることを伝える。
10	3 前時までの復習をする。 ・食べ物などのフラッシュカードで、 ”Do you like ～？”の文に乗せて言う練習をする。また、その疑問文に対してYesまたはNoで答える練習をする。	・上手に発音できなくても大丈夫ということを伝えることで、安心して取り組めるよう支援する。 ・ALTの発音をよく聴いて、まねるよう助言する。	・フラッシュカードを提示する際、必要に応じて身振り手振りなども加え、楽しんで復習できるよう工夫する。
15	4 ピクチャーゲームをする。 (1) ALTが自分の好きなものを描いて児童が答えるクイズを行う。 (2) HRTが自分の好きなものを描いて児童が答えるクイズを行う。 (3) 児童の内の一人が自分の好きなものを描いて児童が答えるクイズを行う。	・大きな声が出ていない児童に寄り添い、発音の補助をし、自信を持たせる。 ・児童の様子を見ながら日本語でルールの説明の補助を行う。 ・児童と共にゲームに参加しつつ、児童の補助にあたる。ルールがよく理解できない児童には個別に説明する。 ・児童の様子を見ながら日本語でルールの説明の補助を行う。 ・児童にワークシートを配布する。	・ルールの説明を英語で行う。 ・児童と共にゲームに参加しつつ、児童の補助にあたる。
14	5 インタビューゲームを行う。 (1) 児童は数種類の食べ物の絵が描かれたワークシートを持ち、ペアを作ってインタビューを行う。 ・”Do you like～？”の文を使って質問する。 ・ワークシートの絵に描いてある食べ物が好きな場合のみ、その友達の名前をワークシートに記入する。	・インタビューをする時に”Do you like～？”の表現を使っているかどうか、応え方が適切か観察し、支援する。 ◎”Do you like～？”の表現を用いたゲームを通して、友達やALTと共に楽しくコミュニケーション活動を行おうとしているか。（行動観察） ・負けてしまった児童に対しても、その頑張りを認める。	・ルールの説明を英語で行う。 ・発音しづらい食べ物の名前については、再度発音練習を行う。 ・児童と共にゲームに参加しつつ、児童の補助にあたる。 ・パートナーがなかなか見つからない児童の手助けをする。 ・各グループのチャンピオンを確認し、全員で称えるよう声を掛ける。
1	6 あいさつをする。 Thank you. Good-bye.	・児童と共に元気にあいさつをする。	

時間	学習活動・内容	指導上の留意点（◎は評価の観点）	
		H R T	A L T
1	1 あいさつをする。 Good morning. How are you? I'm__.	・ H R T 自らが大きい声で挨拶をすることで模範を示す。	・ 全体に挨拶をする。 ・ まず A L T が児童に質問し次に児童が教師に質問する。
4	2 ウォームアップのゲームを行う。 ・ A L T とじゃんけんをする。その際、“Rock, paper, scissors, 1, 2, 3” の “1, 2, 3” の代わりに “Cock-a-doodle-do” と言う。 ・ 全員起立でゲームを始め、A L T とのじゃんけんに負けたら席に座る。 ・ 最後まで残った児童がチャンピオンとなる。	・ ルールの説明を日本語で補足する。 ・ 英語を話すことに対して消極的な児童に対して支援にあたる。 ・ ゲームの際にルールを無視しがちな児童に注意を払う。	・ じゃんけんゲームをすることを告げる。 ・ 通常の英語のじゃんけんの “1, 2, 3” 部分を “Cock-a-doodle-do” に置き換えて意欲をもたせ、元気に言うよう伝える。
7	3 前時までの復習をする。 (1) 16種類の職業名をフラッシュカードを使い練習する。 (2) “I want to be ~.” の文に乗せて職業名をいう練習をする。 (3) 黒板に貼られたフラッシュカードの中で、A L T が隠したカードの職業名を当てる。	・ 児童と一緒に楽しく練習する。 ・ 大きな声が出ていない児童に寄り添い、発音の補助をし、自信をもたせる。	・ フラッシュカードを提示する際、身振り手振りなども加え、楽しんでも復習できるように工夫する。 ・ 児童に分かりにくいようにフラッシュカードを隠し、場を盛り上げる。
8	4 パートナー探しゲームをする。 (1) A L T または H R T から手渡されたカードを見て、何の職業カードか確認する。 (2) “I want to be ~.” の文に乗せてカードに描かれた職業名を言いながら、同じカードを持つ児童を探す。 (3) 同じカードを持つ児童が見つかったら、その場に座る。	・ 半数の児童にカードを手渡す。 ・ 児童と共にゲームに参加しつつ、児童の補助にあたる。特に、ルールを守っているかに気を付けて見る。	・ 発音しづらい職業名については、再度発音練習を行う。 ・ 児童と共にゲームに参加しつつ、児童の補助にあたる。 ・ パートナーがなかなか見つからない児童の手助けをする。
24	5 Concentrationゲームをする。 (1) グループを作り、カードを裏返しに机の上に広げて置く。 (2) カードを引く順番を決め、ゲームを始める。 (3) カードを選んで表に向けた時には必ず “I want to be ~.” でそのカードに描かれた職業名を言う。2枚目を表に向けた時も同様にする。 (4) 同じカードを選ぶことができたなら、そのカードを入手することができる。 (5) グループ内で一番たくさんカードを入手した児童がチャンピオンとなる。	・ 児童の様子を見ながら日本語でルールの説明の補助を行う。 ・ ルールを守ってゲームが行われているか見守る。特にカードを表に向けた時に、きちんと “I want to be ~.” でそのカードに描かれた職業名を表現しているかどうか気を付けて観察する。 ◎職業名と、それらを用いた “I want to be ~.” の表現を用いたゲームを通して、友達や A L T と楽しくコミュニケーション活動を行おうとしているか。 (行動観察)	・ ルールの説明を英語で行う。
1	6 あいさつをする。 Thank you. Good-bye.	・ 負けてしまった児童に対しても、その頑張りを認める。 ・ 児童と共に元気にあいさつをする。	・ 各グループのチャンピオンを確認し、皆で称えるよう声を掛ける。



Circle Interview Game (Group Work)



Classroom Quiz



Easter: Egg Dyeing and Egg and Spoon Races



Kangaroo DVD and hat making activity



Thanksgiving Handprint Turkey Painting



English Club: Alphabet Pool Day



What am I? Adjectives Game



English Club: Haunted House Week

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立御所ヶ丘小学校

1 はじめに

本校では、守谷市の英語教育の目指すべき「コミュニケーション能力を図るための積極性、豊かな自己表現力、伝える内容を整理する構合力、様々な分野における幅広い知識、相手を尊敬する態度」の5つのポイントを受け、「コミュニケーション能力」の素地を育成することを目指している。

これまでの取り組みを踏まえ、ALTと学級担任が協力しながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする授業を展開したり、外国の文化を身近に触れられる環境づくりに取り組んだりしてきた。

2 具体的な実践内容

(1) 特例としての取組

〈低学年〉

- ・自分自身に関すること自分と身近な人々とのかかわりに関する取組として、簡単な自己紹介をしたり、自分の体調を伝えたり、相手に尋ねたりする表現に親しんだ。
- ・自分と自然とのかかわりに関する取組として、英語での天候の言い方、動物や昆虫の言い方、野菜や果物の言い方を学習した。
- ・自分と社会とのかかわりに関する取組として、ハロウィーンやクリスマスなどの文化に触れそれらに関連のある活動を体験した。

〈中学年〉

- ・グループ対抗のゲームや活動を行い、自らのことを話したり、相手のことを知ろうとして質問したりして、楽しくコミュニケーションを図りながら交流を図った。
- ・ALTの母国の自然やイースター、ハロウィーンやクリスマスなどの文化について触れ、国際的な知識を深めた。

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

〈高学年〉

- ・中学校区のALTに協力してもらい、Communication challengeに取り組んだ。
- ・phonics指導として母音5つ(a,i,u,e,o)の指導を開始した。
- ・感謝祭の起源について理解し、感謝する相手、感謝することを英語で表記する活動を行った。
- ・中学校に向けて発表する力を高めるために、世界地図に国旗や英語で表記した国名を掲示して、自分で行ってみたい国とそこで何をしてみたいかを英語で発表する活動を行った。

3 学校独自のアプローチ

(1) 環境整備

- ・ワールドルームを設置・整備した。
- ・外国語活動の時間をEタイムと設定した。
- ・各クラスに大文字と小文字の表記の絵カードを掲示し興味をもてるようにした。
- ・各クラスにEタイムの様子を掲示し、活動をふり返るコーナーを作った。

(2) 授業以外の活動

- ・英語クラブには、昨年度の2倍の人数27名が参加した。グループごとにゲームを通して楽しく交流する活動を行った。(英語で四則の計算、He Sheの発音と使い方 プールの中で英語を使ったアルファベットのカードゲーム、Haunted house)等、授業よりレベルアップした内容で好奇心を高めるように活動した。
- ・ごしょまつりの発表の中で英語劇を披露した。(1年生)
- ・英語で朝の会(あいさつ、天気、健康観察)を行った。

4 成果と課題

(1) 実施による効果

- ・第1学年からネイティブな発音を聞くことができるので6年間でリスニング力の向上に効果的である。
- ・ALTが同一校4年目なので、個々の児童の実態をよく把握しており、個に応じた対応(意図的指名・役割演技)を事前にプランニングしている。
- ・系統的な学習ができるので、見通しをもったカリキュラムが組める。また、英語に対する苦手意識や照れや恥じらいがなく表現活動が積極的になり、表現力の育成につながっている。
- ・外国語活動において、楽しく参加する様子が見られて、児童からもっと色々な言葉を覚えたい等意欲的な発言が聞かれるようになった。
- ・学習発表会などで、一部英語を取り入れた劇を行うなど他の活動への広がりが見られている。

(2) 課題と今後の取組

- ・「聞くこと・話すこと」から「読むこと・書くこと」の4技能の総合的な育成ができるようカリキュラム編成を改善していく。中学校との接続を考えるとさらに検討すべきである。

外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立郷州小学校

1 はじめに

本校では、外国語（英語）活動の時間を心待ちにしている児童が多い。2学期末に行った実態調査によると、「外国語（英語）活動を楽しみにしているか」という問いに対して、全校児童の約90%が「そう思う」または「大体そう思う」と回答している。保護者への調査においても、外国語（英語）活動へ寄せる期待は大きい。そのような思いを受けて、通常の外国語（英語）活動の授業はもちろんのこと、それ以外の日常の場面においても、ALTの協力も得ながら、充実した外国語（英語）活動の実践を心がけたいと考える。

2 具体的な実践内容

（1）特例校としての取組

<低学年>

2年生の「自分の家族を紹介しよう」では、自分の家族を英語で紹介する活動を行った。いずれの学年においても、友達とコミュニケーションを図る活動を十分に行い、生活科の「自分と人のかかわり」という観点において、お互いのことをよく理解することができた。

<中学年>

3年生の「好きなものを伝えよう」では、総合的な学習の時間の学年テーマと関連して、守谷市内で自分が好きな場所について、英語で友達に伝え合う活動を行った。意欲的に活動することができた。

（2）小中一貫教育の視点を意識した取組

<高学年>

6年生において、中学校での「書くこと」へのギャップを考慮して、2学期からフォニックスの指導を取り入れた。文字と音を結びつける活動に、最初こそ戸惑いは見られたが、活動を繰り返すにつれて、そういったこともなく楽しく活動に取り組むことができた。また、ほとんどの児童が、母音を中心とした基礎的なフォニックスのきまりを理解することができた。

3 学校独自のアプローチ

（1）世界のあいさつ

毎月1つずつ言語を取り上げ、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「どういたしまして」などの言い方を、全学級で掲示している。また、定期的に朝の会・帰りの会で各言語のあいさつをしたり、連絡帳提出の際に、「ありがとう」「どういたしまして」を各言語で言ったりするなどして、さまざまな言語に親しみをもてるようにしている。（資料1）

（2）校内掲示物の充実

校内各所に、国際理解を喚起するための掲示物を掲示している。例えば、多くの児童が通る職員室や英語ルームの廊下には、世界地図と国旗、首都名、人口、面積などをクイズ形式で掲示したり、世界各国の有名な建造物等を掲示したりしている。（資料2）

（3）ワールドキャラバン

今年度も昨年度に引き続き、国際理解を喚起するために、高学年の児童を対象に「ワールドキャラバン」（国際交流協会主催）に参加した。当日は、フランス人の方が講師として来校し、フランスの食べ物や遊び、小学生の様子などについて、日本の文化と比較しながら、分かりやすく説明してくれた。楽しみながら、異文化への興味・関心を高めることができた。（資料3）

4 成果と課題

英語で何かを伝える活動を通して、他の教科・領域と比較しても、児童同士が十分にコミュニケーションを図ることができた。低学年・中学年においては、生活科と総合的な学習の時間と関連した活動を取り入れことで、児童の英語活動への意欲の高まりもみられた。また、今年度もワールドキャラバンへの参加は、児童にとって国際理解への意欲を喚起するよい機会となった。

今後は、次年度より高学年で実施予定のフォニックス指導などに向けて、校内研修を充実させるなど、教員の指導力向上に取り組みたい。また、児童がより必然的な形で英語を使ってコミュニケーションを図ることができるように、授業展開や計画を工夫したいと考える。生活科と総合的な学習の時間との関連についても、更なる深まりをもたせられるよう指導内容を工夫したい。

郷州小学校 第1学年英語活動案

授業者 H R T 渡部 歩未
A L T Robert Dustin Kramer

題材名「虫と仲良しになろう」

(㊦…言語活動, ㊧…評価, ㊨…配慮を要する児童への手立て)

学習内容・活動	支援・評価	
	H R T	A L T
1 始めのあいさつをする。 ” Good morning.” 2 あいさつをしながらネームカードを配る。 ・ Yes ・ I’ m hot. / I’ m great. / I’ m ~ 3 本時の学習課題を知る。	・ 日直以外の児童と一緒にあいさつをし、模範を示す。 ・ クリップを渡ししながら英語で声をかける。 ・ ALT の説明を簡単に補足し、学習内容を理解させる。	・ 日直の児童を支援し、あいさつをする。 ・ “How are you?” と声をかけ、児童一人ひとりと会話をする。
色や虫を使って、ポイントゲームをしよう。		★ネームカード
4 本時で使用する基本的な単語を確認する。 〈主な単語〉 ・ red ・ blue ・ green ・ yellow 等 ・ caterpillar ・ butterfly 等 5 色と虫の単語を使ったゲームをする。 〈カラータッチゲーム〉(資料4) A L T が指定した色を教室の中から探し、タッチする。 ・ red ・ blue ・ green ・ yellow 等 〈ポイントゲーム〉 黒板に、色と虫とポイントのカードを掲示する。ポイントカードは点数が分からないように伏せておく。児童はランチグループごとにチームになり、一人ずつ順番に色と虫の名前を答えていき、該当するポイントカードをめくることができる。出たポイントがグループの得点になる。 ・ red butterfly please. ・ yellow caterpillar please.	・ 児童と一緒に ALT の出したカードの色を復唱し、児童が自信をもって話せるようにする。 ・ 児童と一緒に指定された色を探し、ゲームに参加する。分からない児童にはヒントを出す。 ・ 児童の反応を見ながら説明を補足し、ゲームの内容やルールを理解させる。 ・ 単語が出てこない児童にはヒントを出す。	・ 本時の学習活動を伝え、意欲をもたせる。 ・ 色カードを見せ、模範として発音する。 ★色カード ・ 指定した色を伝える。児童が聞き取りやすいように 2, 3 回繰り返し伝える。
㊦ 色と虫の名前を教師や友達に伝える。	㊧ どのカードが良いか一緒に選び、言い方の模範を示して自身をもたせる。 ㊧ 習った言葉を使い、積極的にゲームに参加して ALT や友達とコミュニケーションを図ることができる。(行動観察)	★ポイントカード
6 本時の振り返りをする。 覚えた言葉や、もっと聞いてみたいことを A L T に伝える。 7 おわりのあいさつをする。 “Thank you very much.”	・ どんなことを覚えたかを児童と一緒に確かめる。 ・ 児童と一緒にあいさつをし、模範を示す。	・ 日直の児童を支援し、一緒にあいさつをする。

郷州小学校 第6学年 外国語活動案

授業者 HRT 稲葉 寛子

ALT Robert Dustin Kramer

題材名「紹介をしよう」 (㊟…言語活動, ㊞…評価, ㊤…配慮を要する児童への手立て)

配時	学習内容・活動	支援・評価	
		HRT	ALT
1	1 はじめのあいさつをする。 “Good afternoon.”	・日直以外の児童と一緒にあいさつをし、模範を示す。	・日直の児童を支援し、あいさつをする。
8	2 ウォーミングアップをする。 ＜クラブゲーム＞ ・グループで一人ひとつ担当の単語を決め、リズムに合わせてその単語を言っていく。	・本時に関連する単語を扱うことにより、楽しく表現の復習ができるようにする。	・ゲームの前に、本時に関連する単語を提示し、発音を練習する。
2	3 本時の学習活動を知る。 今までに習った英語を使って、友達のことを伝え合おう。	・各グループを巡視し、必要に応じて支援する。	・簡単にゲームのルールを確認する。
6	4 本時で使用する基本的な表現を確認する。 ＜主な表現＞ ・Who are you ? ・I am a boy / girl. ・I like / can ~. ・I live in ~. You are ~.	・ALT の見本の後、児童と一緒に発声し、学習者のモデルとして模範を示す。	・本時の学習活動を伝え、活動の見通しをもたせる。
19	5 友達のことについて、伝え合う。 ＜誰かな？ゲーム＞（資料5） ・A: “Who are you ? ” B: “Hint 1. I am a boy. ” A: “More hints, please. ” B: “Hint 2. I like ~.” 等 ・二人一組で、初めは隣の席の人のヒントカードをもとに、クイズを出し合う。じゃんけんをして、勝った方から解答者になる。 ・ヒントを一つずつ計4つ出し、正解したら1ポイント獲得。 ・お互いにクイズを出したら、ヒントカードを交換する。 ・活動後、くじ引きをし、出た数字の出席番号の人を当てていたらボーナスポイント獲得。 ・多く得点を獲得した児童の勝ち。 ㊞ 友達のことについて、英語で伝え合う。	・自分のことについて発話することで、練習させる。 ・ALT と一緒に模範を示しながらやり方を説明することで、理解の向上に努める。 ・話をする時のポイント（アイコンタクト、笑顔、声の大きさ）を黒板に提示し、意識して活動できるよう助言する。 ・ゲームの間は、日本語を使わないよう助言し、英語での活動を意識させる。 ・クイズの始めと終わりのあいさつもきちんと行うよう助言する。 ㊤分からない時には、ヘルプカードを提示できるようにしておき、表現を教師と一緒に復唱することで自信をもたせる。 ・友達のことを伝え合う活動を通して、英語で友達と積極的にコミュニケーションを図ることができる。 (行動観察・ワークシート)	・全体→グループ→個→全体等のように、何度も表現の練習を繰り返すことで、自信をもたせる。 ・積極的に発声している児童を称賛し、意欲を高める。 ・HRT と一緒に模範を示しながら、ゲームのやり方を説明する。 ・分からない時には、ヘルプカードが使えることを確認し、児童が安心して活動できるようにする。 ・児童と積極的にのかかわりその取り組みを称賛して、自信をもたせる。 ・終了の合図として、音楽を流し、進行がスムーズにいくよう配慮する。
8	6 振り返りカードを記入し、本時を振り返る。 ・カード記入後、感想を発表する。	・話す時のポイントができていたか等について振り返るよう助言し、改めてそれを意識させる。	・各グループのリーダーにカードを配布する。
1	7 おわりのあいさつをする。 “Thank you very much.”	・児童と一緒に大きな声であいさつをし、模範を示す。	・本時のよかった点を称賛し、まとめる。 ・日直の児童を支援し、一緒にあいさつをする。

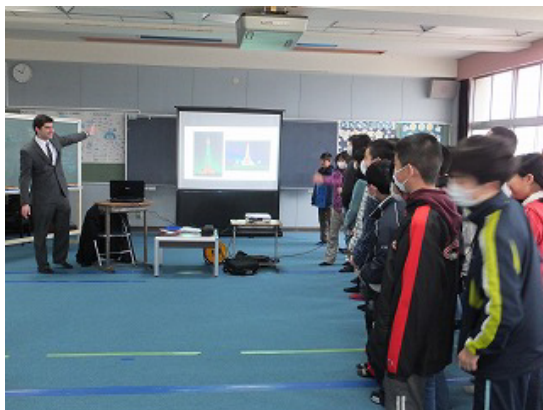
(資料1)「世界のあいさつ」掲示



(資料2) 職員室前掲示物



(資料3)「ワールドキャラバン」の様子



(資料4) 1年生活動の様子



(資料5) 6年生活動の様子



外国語活動(英語活動)の実践

守谷市立松前台小学校

1 はじめに

本校の外国語活動(英語活動)は、守谷市の目標を受けて「外国語活動を通じて、言語、文化、生活、習慣などに対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ中で、児童同士が楽しく学び合える力を育成する。」を目標にしている。これまでの取り組みを基にさらに、児童同士が外国語を活用して話し合ったり、協力したりする活動を意図的に取り入れ、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ってきた。

2 具体的な実践内容

(1) 特例校としての取組

〈低学年〉「ともだちをたくさんつくろう・生き物発見・わたしの学校どんなところ・私の町の発見・家族で一緒にお正月・自分発見」

- ・上記の学習内容において、生活科との関連を図った。小グループやペア活動を積極的に取り入れ、英語でのあいさつ等を行った。英語を使って友達やALTに関わっていく姿が見られた。

〈中学年〉「探究的な活動」

- ・ALTの出身国の話を聞いて外国に興味をもった児童が、自分で選んだ様々な国について言語や文化に関することを調べた。自分で調べたことを英語や日本語で友達に伝えるという活動に意欲をもって取り組んでいた。自分で調べた国をポスターにし「ショー&テル」を行い、様々な国の文化に興味をもつことができたようにした。

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

〈高学年〉小中一貫教育の視点を意識した活動

- ・5・6年生に関しては、「Hi, friends.」を中心とした授業を行った。オールイングリッシュでの授業を心がけ、多くの英語に慣れることができたようにした。毎回簡単な英会話を友達やALTと行う機会を設けて、自然に英語を使ってコミュニケーションを図ることができるようにしてきた。6年生では、中学校区のALTや中学校の先生と児童との交流を行った。

3 学校独自のアプローチ

(1) 朝の会とランチタイムにALTが参加し、英語の日常表現を紹介している。

(2) イングリッシュボードで月ごとに様々な国の食べ物や建物、言葉などを紹介している。

(3) ワールドルームを整備し、活動によってよりよい場で活動できるようにしている。

(4) 毎朝のあいさつ運動にALTも参加し、英語でのやりとりが日常的に行えるようにしている。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・低学年では主に人との関わりに関する内容で、英語や日本語で楽しく交流することで多くの友達と関わっていったり、ALTに積極的に声をかけたりする児童が多くなったことである。
- ・中学年では、自分で調べたことをポスターにまとめ分かる英語で発表することで、英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを知ることができた。
- ・高学年では、児童の言葉や文化に関する疑問を大事にして、説明を加えたり、みんなで確認したりすることで、不安が解消され楽しく活動することができた。

(2) 課題

- ・単学年の活動が中心となっていたが、他学年と英語を通して関わるような機会を設けることが必要だと感じている。また、フォニックス指導に関する校内研修も行っていきたい。

松前台小学校 第4学年 英語活動案

授業者 H R T 立花 美知子

A L T オーブリーフィールド

時間	活動内容（児童の活動）	指導・支援の留意点（指導者の活動） ◎評価	
		H R T	A L T
5	1 英語であいさつをする。 A L Tの質問に答える。 Hello. / How are you? What day is it? How's the weather?	・あいさつに答える児童を指名する。 ・日付・曜日を掲示する。	・あいさつ・天気・日付・曜日に関する質問をする。 ・H R Tと一緒に手本を示す。
3	2 質問ゲームをする。 ミニteacherの質問に答える。 Hello. / How are you? What day is it? How's the weather?	・答え方にとまどっている児童を支援する。	・カードを見せながら正しい発音のモデルを示す。
3	3 「It's a small world」を歌う。 リズムにのって歌いながら、ウォーミングアップする。	・リズムにのって歌が楽しくできた児童を称賛する。	・児童と一緒に、ジェスチャーを交えながら、リズムにのって歌う。
5	4 本時のめあてを確認する。	・本時のめあてを伝え、意欲を高める。 ・A L Tとともに手本を示す。	・What country do you like?/I like ~.の言い方のモデルを示す。
2 3	5 調べた国を紹介する。 ・ランチグループで紹介する。 ・発表者以外の児童がWhat country do you like?の質問をし、発表者がI like ~.と答える。 その後、調べた国について発表する。	・紹介の仕方に戸惑っている児童を支援する。	・紹介の仕方にとまどっている児童を支援する。
		◎好きな国を尋ねる言い方や答え方に慣れ親しんでいる。 ＜観察＞ ◎興味のある国について調べたことを、積極的に紹介したり、友達の発表を聞き取ったりしようとしている。 ＜観察＞	
5	6 振り返りカードに反省をする。 ・発表を聞いて感じたことを発表する。	・今日の活動で自分の調べた国について友達に紹介できたかどうかについて振り返るよう話す。	・活動の中でよかったこと、感じたことを話す。
1	7 あいさつをする。	・児童と共に大きな声であいさつをする。	・元気にあいさつをし、楽しい雰囲気で終わるようにする。

松前台小学校 第5学年 外国語活動案

授業者 H R T 古谷 久恵

A L T オープリーフィールド

時間	活 動 内 容	指導・支援の留意点（指導者の活動）◎評価	
		H R T	A L T
2	1 あいさつをする。 ・ Hello. How are you?	・ 元気にあいさつをして明るいきずくで活動に入れるようにする。 ・ 質問に答える児童を指名する。	・ あいさつのモデルを示し、和やかな雰囲気になるように努める。 ・ 天気、曜日、時間に関する質問をする。
6	2 質問ゲームをする。 ミニteacherの質問に答える。 ・ How are you? ・ How's the weather? ・ What day is today? ・ What's this? など	・ リラックスした中で答えられるようにし、きちんと受け答えができた児童を称賛する。 ・ 答え方が分からない児童には見本の発音を示し、支援する。	・ フラッシュカードを提示しながら正しい発音のモデルを示す。 ・ ミニteacherが正しく質問できているか確認する。
5	3 前時までの復習をする。 ・ 「How many balls?」を歌う。 ・ 1～50までの言い方を一人ずつ順番に言う。	・ 「big voice」を意識させ、恥ずかしがらずに自信をもって歌ったり言ったりできるように声をかける。	・ 日本語的な発音にならないように注意させ、難しい発音は、繰り返し手本を示すようにする。
2	4 本時のめあてを確認する。 51～75の数の言い方・数え方に慣れよう！	・ 本時のめあてや活動内容を伝え、意欲を高める。	・ 「big voice」「smile」を意識して取り組めるよう、声をかける。
2 4	5 数を使ったゲームをする。 ① 51～75までを練習する。 ② 「How many?クイズ」をする。 ・ dogs, cats ・ apples, bananas ・ baseballs, soccer balls など ③ Scavenger Huntゲームをする。	・ リズムに乗って数の練習ができているか、確かめる。 ・ A L Tと共にデモンストレーションを行い、クイズやゲームの仕方の理解を促す。 ・ 質問の仕方や答え方の定型文掲示カードを提示し、いつでも振り返ることができるようにする。 ・ 活動の様子を観察し、消極的な児童には声をかける。 ・ 積極的な児童には、進んで自分の考えを伝えている態度を褒め、戸惑っている児童に教えたり励ましたりする。 ☆グループで取り組ませることで、互いに教え合い、グループの全員が自信をもって自分の思いや考えが伝えられるようにする。	・ 正しい発音になるように児童の発音を確かめながらリードする。 ・ H R Tと共にデモンストレーションを行い、クイズやゲームの仕方の理解を促す。 ・ 児童がよく聞き取れなかった表現を、繰り返しゆっくりと言う。 ・ 質問の仕方や答え方が分からない児童の支援をする。 ・ 「big voice」「smile」の2つのポイントを意識して楽しくゲームするように助言する。
		○数を使ったゲームに積極的に参加し、51～75の数え方に親しもうとしていたか。 (観察)	
5	6 活動の振り返りをする。	・ めあてを意識して振り返りができるように声をかける。	・ 活動の中で良かったことや感じたことを話そうにする。
1	7 あいさつをする。	・ 児童と共に大きな声であいさつし、次時への意欲をもたせる。	・ 元気にあいさつし、楽しい雰囲気でおわるようにする。

(資料1) 4年生 自分が選んだ国を調べている様子

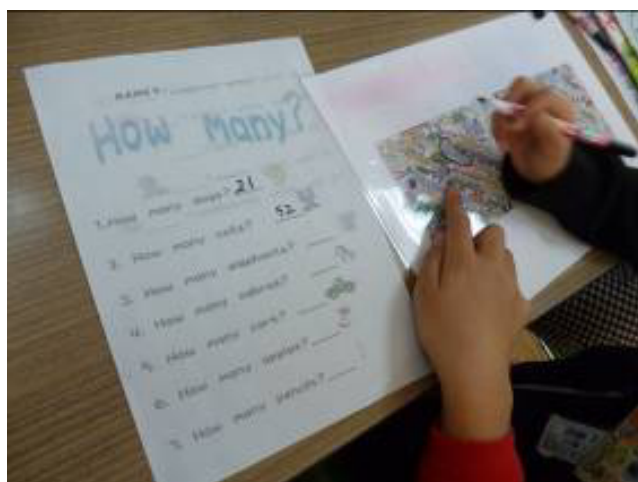


(資料2) 5年生 ゲームで友達と交流している様子



(資料3) 5年生 Scavenger Hunt ゲームの様子

(資料4) 5年生 友達が言った数をよく聞き取っています。



外国語活動（英語活動）の実践

守谷市立松ヶ丘小学校

1 はじめに

本校では、週1時間の外国語（英語）活動の時間を「こくさい」と名付け、生活科や総合的な学習、学校教育活動との関連を図りながら「コミュニケーション能力の素地を養う」ことを目標とした様々な活動に取り組んでいる。第1年生から英語学習を取り入れることによって、段階的・系統的に英語を学ぶことができるとともに、異なる文化をもつ ALT との交流を通して、体験的に外国の文化等の理解を深めることができると考える。また、小学校において英語を使った言語活動やそれに伴う身体表現を十分に学ぶことは、英語でコミュニケーションする力の基礎となるだけでなく、児童が人と関わる楽しさを実感し、その人間性や社会性をいっそう豊かにすることにもつながると考える。

2 具体的な実践内容

(1) 特例校としての取組

〈低学年〉生活科の時間と関連して、身近な人々との関わりとしては、友だちや先生に積極的に英語で挨拶したり、自分のこと（名前や好き嫌いなど）や家族について簡単な英語で紹介したりする学習を行った。その活動を通して、英語で楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度が芽生えてきた。また、社会、自然とのかかわりとしては、地域についての様々なこと、天気や生き物の英語での言い方などを歌やゲームを通して覚えていく活動を取り入れたことで、英語に対する興味・関心を高めることができた。

〈中学年〉総合的な学習の時間と関連して、外国の文化や生活などの国際理解に関する興味・関心を高めたり、探求的に調べたりする活動を行った。特に、世界の国々の位置を地図で確認しながら、各国の気候、国旗や貨幣、文化や風習、建物や動物を調べたり、写真や実物を用いて英語で紹介したりする活動を取り入れたことで、英語に親しみながら楽しく異文化理解を深めることができた。

(2) 小中一貫教育の視点を意識した取組

〈高学年〉小中連携を意識した取組として、市内小中各校の ALT をゲストティーチャーとして本校へ招き、5・6年生と一緒にクリスマス集会を行った。ALT の自己紹介やインタビュー、クイズやゲームなど日本語を使わずに英語のみで行った。今まで学習した英語を活用し、ジェスチャーなども用いながら ALT と積極的に会話をしたり、一緒に楽しく活動を行ったりしたことで、英語でコミュニケーションを図る能力の素地を養うことができた。

3 学校独自のアプローチ

(1) イングリッシュコーナーの設置

児童が自由に英語に慣れ親しむことができるよう、各教室及び廊下や階段にイングリッシュコーナーを設置している。学年の発達段階に応じて掲示内容を考慮し、児童の興味・関心が高まるよう工夫している。



(2) イングリッシュルームの整備

週1時間の外国語（英語）活動の時間「こくさい」の授業をより効果的・効率的に行えるよう、特別教室の一室をイングリッシュルームとして整備した。そこには、世界地図や各国の写真、クラスルームイングリッシュなどを掲示し、国際理解を深めながら英語に楽しく親しむことができるよう工夫している。

(3) 保護者への授業公開（第3学年）

授業参観で3学年の英語活動の時間を保護者に公開している。活動の様子を実際に参観してもらうことで、保護者の英語教育活動への理解が深まるよう工夫している。

(4) 英語学習プリントの配布（高学年）

外国語活動で学習した英語表現をまとめ、定期的に学習プリントとして高学年に配布している。児童はそれを英語カードや連絡帳に添付し、家庭学習や自主学習などに役立てている。学習した英語をより効果的に身に付け、中学校へのスムーズな接続ができるよう工夫している。

4 成果と課題

特例校として、ALT が学校に常駐し、第1学年から発達段階に応じた段階的・継続的な英語学習が行なえるということは大変素晴らしい取組であると常々感じている。ALT と触れ合う機会が十分に確保されている恵まれた環境が、児童の英語に対する興味・関心を非常に高めている。児童は、ALT と積極的にコミュニケーションを図ったり、躊躇しないで英語で話しかけたりすることができるようになり、英語に楽しく慣れ親しむ態度が育ってきていることが分かる。また、授業では、「ノージャパニーズ!」を徹底し、学習した英語表現を用いて日本語を使わずにコミュニケーションを図ることを意識付けている。その結果、ALT の英語での指示や説明をしっかりと聞き取り、内容を理解することができるようになってきた。

今後の課題としては、実践的なコミュニケーション活動の場を意図的に設定し、英語を話す楽しさや良さをさらに実感させていくことである。そのために、週1回の外国語（英語）活動の時間と、生活科や総合的な学習の時間との関連を含めた授業展開を工夫・改善することで、英語に対する体験的な理解を深めながら積極的にコミュニケーションを図る能力育成の素地を養っていきたい。

松ヶ丘小学校 第1学年英語活動案

授業者 HRT 榎野 綾子

ALT Paul de Giovanni

題材名 「Halloween (ハロウィン)」

学 習 活 動	☆指導・支援の留意点 ★準備するもの	
	HRT	ALT
1 英語であいさつをする。 (1) ALT と児童であいさつ (2) Little teacher (児童2人) と児童であいさつ Hello. / Good morning. How are you? -I'm fine.etc	・明るくよい雰囲気で活動が行えるように, 明るく大きな声であいさつをする。 ・ Little teacher を児童から2人選ぶ。あいさつに戸惑っている時には, そばについてヒントを与える。	・全員の児童が元気にあいさつできるように, 明るい表情で声をかける。 ・ Little teacher のあいさつに耳を傾け, 児童と一緒に大きな声で答える。
2 本時の学習内容を知る。 Let's enjoy "Halloween"! -ハロウィンを楽しもう!-	☆本時の学習内容を英語で伝える。ハロウィンの写真を示し, イメージがもてるようにする。	☆ハロウィンの衣装を着て登場し, 児童の興味・関心を高めて楽しく活動に取り組めるようにする。
3 ハロウィンについて知る。 (1) ハロウィンの話を聞く。 (2) ハロウィンに関するいろいろな名前を知り, 発音する。 Frankenstein,bat,witch,ghost,vampire,black cat, skeleton,etc	・ALT の話をきちんと聞くよう話す。 ・ALT の口元をよく見て真似をして元気に発音できるよう励ます。	★ハロウィン衣装 ・写真を見せてハロウィンについて話す。 ・絵カードを見せながら, ハロウィンに出てくるいろいろな名前を発音する。
4 モンスターマスク作りをする。 (1) 色をぬる。 (2) 切りぬく。 (3) 輪ゴムをつける。	・作業が遅れている児童を支援しゲームができるよう配慮する。 ★画用紙, 輪ゴム	・英語で説明しながら, 色ぬりや切りぬきの見本を示す。スムーズに進められるよう声をかける。
5「ゾンビジャンケンゲーム」をする。 (1) 2人組になりジャンケンをする。負けたら体の一部がゾンビになる。(腕を上げる等) (2) ジャンケンを繰り返す。勝ったら元に戻ることができる。	・ALT とデモンストレーションを行い, 児童の様子を見て, 日本語で説明する。 ・勝敗に関係なく楽しく活動できるように声をかける。	・HRT とデモンストレーションを行い, ゲームのやり方を英語で説明する。 ・一緒にゲームに参加し, 身体表現の見本を示しながら楽しい雰囲気を作る。
6 終わりのあいさつをする。 Thank you, teacher. See you.	・児童が努力した点を大いに称賛し, 次時の活動への意欲を喚起する。	・児童とともに大きな声で挨拶し, 次時の活動への意欲づけを行う。

松ヶ丘小学校 第5学年外国語活動案

指導者 HRT 野口 美紀子
ALT Paul de Giovanni

題材名 「Lesson4 I like apples. (Hi, Friends1)」

学 習 活 動	☆指導・支援の留意点 ★準備するもの	
	HRT	ALT
1 Greeting (1) 全体ではじめの挨拶をする。 “Stand up. Stand nicely. Be quiet. Let’s start. Bow.” (2) Mike teacher が体調や曜日等のQ&Aを行う。 Q: Hello. How are you? —A: I’m (fine/ good/ happy). Q: What day is it? —A: It’s Tuesday. Q: How’s the weather? — A: It’s (sunny/cloudy/rainy). 2 Warm Up Let’s Chant “Do you like apples?” 3 Presentation and Activities Let’s guess “Who?” 誰かを当てよう！ 【Key Sentence】 “Do you like～? -Yes, I do. / No, I don’t.” (1) Let’s Listen 「先生の好きなものと嫌いなものを聞こう」 ① 好きなものを尋ねる言い方と答え方を練習する。 ② HRTの好きなものと嫌いなものを予想して聞く。 (2) Let’s Play “Guess Who ゲーム” ① 4人グループを8つ作り、その中でペアを組む。 ② 各ペアでキャラクターカードを1枚選ぶ。 ③じゃんけんをして勝ったペアから”Do you like～?”と質問する。負けたペアは、カードを見て”Yes, I do. / No, I don’t.”と答える。 ④勝ったペアは、答えを聞いて該当しないボード “Yes→No “ “No→Yes”を倒す。 ⑤質疑応答を続け、お互いのキャラクターが何かを考える。途中で相談タイムを設け、相手が何を持っているかをペアで予想させる。 ⑦答えが分かった時点で ”I think Pikachu.” と言い、早く正解した方が勝ちとなる。	・笑顔で明るく挨拶し、楽しく授業が始められる雰囲気を作る。 ・声の出ていない児童のそばについて一緒に発音し、安心して答えられるよう支援する。 ・リズムに乗って楽しくできた児童を称讃する。 ・全体を観察し、つまづいている児童にはALTの口の形や発音を真似るように声をかける。 ・好きなものと嫌いなものをジェスチャーを交えながらゆっくりと大きな声で伝え、理解を促す。 ・ALTとゲームのやり方をデモンストレーションする。児童の様子を見ながら、必要であれば補足説明を行う。 ☆4つの観点「Voice / Smile /Eye Contact / Gesture」を意識し、相手意識をもってコミュニケーション活動ができるよう助言する。 ★ゲーム用カード	・明るく大きな声で声をかけ、児童が元気に挨拶できるようにする。 ・インタビューのそばについて、大きな声でスムーズに質問が行えるよう支援する。 ・手拍子を入れながら、児童と一緒に行う。 ・発音やアクセントを分かりやすく示し、後について発音させる。ゆっくり、はっきりと発音し、児童が聞き取りやすいようにする。 ・ゲームの説明を英語で行う。HRTとデモンストレーションし、活動のイメージをもたせる。 ☆相談する際も英語で行うよう声をかけ、ジェスチャーを入れることでより伝わりやすくなることを思い出させる。
5 End of Lesson (1)よく頑張っていた児童やグループを発表し、称讃し合う。 (2) 終わりのあいさつをする。 ”Stand up. Stand nicely. Be quiet. Let’s finish. Bow.”	・活動に意欲的であったグループを発表し、今後の学習に対する意欲を換気する。	・活動で良かった点を具体的に認め、英語に対する自信を高める。

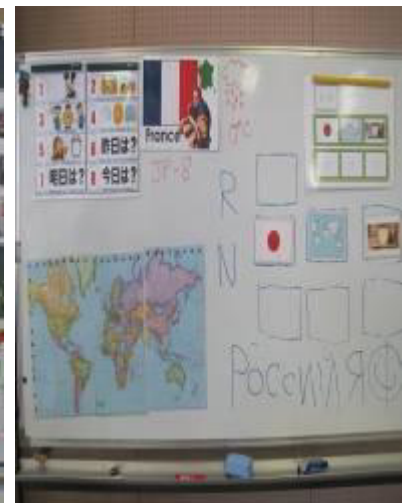
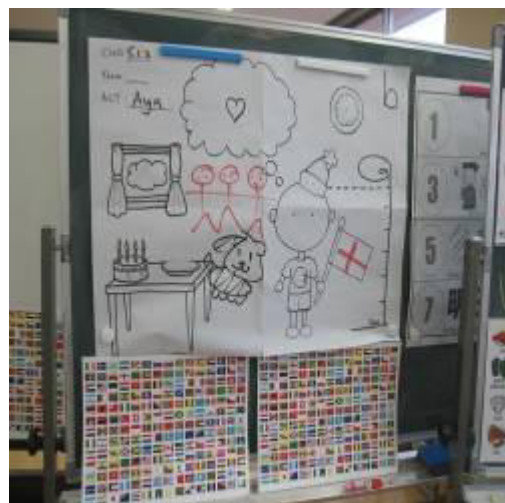
〈資料1〉英語活動の時間「こくさい」の様子（低・中学年授業）



〈資料2〉ALT との交流活動「クリスマス集会」（高学年）



〈資料3〉板書・絵カード



□ 中学校実践事例 □

外国語の実践

守谷市立守谷中学校

1 はじめに

守谷市は文部科学省からの教育家庭特例校の指定を受け、小学校1年生から英語活動を実施している。また、ALTは全校に配置されており、英語学習に対して大変恵まれた環境が整備されている。本校は特にTT指導体制が充実しており、子どもたちにきめ細やかな英語指導ができる環境にある。そこで、小中一貫を意識した、効率的かつ効果的な指導を目指し1年間取り組んできた。

2 具体的な実践内容

(1) 第1学年の取組

第1学年では、小中接続期という段階を意識して、音を文字に置き換えていく事を重視し、次の3点に力を入れた。まずPhonicsを積極的に導入した音と文字との連結作業である。小学校で英語に慣れ親しんできた子どもたちが、最初に出会うハードルが英語の音を文字化することである。Phonicsを用いることにより、英語を書く活動にスムーズに移行できることを目的とした。2つめはSuper Inputを用いた基本文の徹底的な習得活動である。(資料1, 資料2) 単元毎に基本文と本文中の重要英文を何度も繰り返し音読練習と筆記練習を行った。またICT教材を開発し、軽快な8ビートのリズムに乗せて、英語らしいイントネーションとリズムで基本文を何度も練習することにも心がけた。3つめは学び合い学習を通しての辞書指導である。(資料3) 文字を導入した段階で辞書を正しく使いこなせるようになると飛躍的に語彙が向上していく。自ら学ぶ力を育むためにも辞書指導に注力した。

(2) 第2学年の取組

第2学年でも毎時間の活動として、Super Inputを用いて基本文・重要表現を身に付ける活動を行った。Word Listを用いたペアチェックを行ったり、定期的にIndividual Checkや英単語テストを授業内に行ったりした。また、英語力テストでSuper Inputのチェックを行い、基礎学力の向上を図った。さらに、読み物教材を中心にEL(English Leader)を軸としたグループ学習を行った。その中でレベルを3段階に分けて、Summarizing活動も取り入れた。学習した文法事項を用いてのコミュニケーション活動やMini Interactive Forumなどを行った。

(3) 第3学年の取組

第3学年では、基本文の定着を図ると同時に、グループ学習を毎時間取り入れ、生徒同士のコミュニケーションを図る授業を取り入れてきた。1つの課題を協力して取り組み、リラックスした雰囲気の中、エンカウンター的な要素も取り入れた授業を行ってきた。リーディング活動ではEnglish Leaderを中心とした学び合い活動を取り入れ、互いの改善点や良い点に気づかせるように指導した。(資料4) 国際社会に生きる一員として、自分の考えを自信をもって述べ、英語でリーダーシップを発揮できる人材の育成を図り、自ら英語を学び続けることの基礎を築いてくとともに、英語学習のまとめとして、英語で考え英語で話すことができる力を養うことに重点を置いた。

3 成果と課題

Phonicsによる音の文字化作業は、英語を書くということに対しての抵抗感を軽減させるとともに、英語らしい発音の習得には十分な効果があったと考えられる。また、Super Inputで単元の学習初期段階で基本文を繰り返し練習することにより、今後のShadowingやSummarizingを中心とした授業が効率よく行えるであろう。今後の課題としては、Output活動の充実を図ることが上げられる。Mini Interactive Forumの充実やCommunication Challengeに積極的に取り組んでいきたい。

守谷中学校 第1学年外国語指導案

授業者 JTE 野村 和史(T1)

JTE 中井ひとみ(T2)

ALT コリン・マックワート

1 単元名 Unit5 お祭り大好き (NEW HORIZON English Course 1)

2 本時の学習

(1) 目標 学習する表現の音声に慣れようと積極的に Input 活動に取り組むことができる。

(2) 展開

学 習 活 動	留 意 点
1 あいさつをする。 2 本時の学習課題をつかむ。 音と文字の連結を意識しながら Super Input で Unit5 の表現を確認しよう。 3 Phonics Training (1) Rhythm de Phonics (Phonicsの基本音素の復習) - TVに映し出されるVideo Chantに合わせて練習する。 (2) Special Rules “Consonant Digraphs” - Video Chantに合わせて練習する。 - 今日のSound “th” について確認する。 ①発音のポイント ②Writing Practice ③Quick Dictionary 4 Super Input 基本文 (1) 全文の読み方とリズムの確認を行う。 (2) メトロノーム読み① (J= 80の速度で) - 低速でリズムに当てはめる練習を行う。 (3) メトロノーム読み② (J= 120の速度で) (4) Rhythm de Super Input (リズム読み) - TVから流れるリズムに合わせて練習する。 (5) ペアワークによる相互チェック (6) T1・T2・T3によるサウンドチェック - それぞれ10人ずつ分担して個人毎に発音をチェックする。 - サウンドチェックをしている生徒以外は Writing Practiceを行う。 (7) Writing Practice (筆記練習) 5 本時の学習のまとめを行う。 - 本時の学習を振り返り自己評価を行う。	- 唇の使い方や下の位置に気をつけて大きな声で発音練習ができるよう促す。 - モデルとなる発音を大きくはっきりと行う。 - リズムに合わせることに気をとられるあまり、音が不正確になっている場合は、必要に応じてその音を繰り返し練習する。 - 舌先を前歯にかかるく当てることが発音のポイントであることを説明する。 - うまく単語を発見できない生徒を支援する。 - 発音のポイントについて解説する。 4拍のビートに乗る英語らしいフレージングで発音できるようリズムの緩急についてモデルを交えながら説明する。 - 唇の使い方や舌の位置に気をつけて大きな声で発音練習ができるよう促す。 - T1 が廊下側の2列を、ALT が中央の2列を、T2 がベランダ側の3列を1列ずつそれぞれの前に並ばせて、1人ずつサウンドチェックを行う。 - 文頭の大文字、文末のピリオドやクエスチョンマークは、文導入時の1年生にとっては忘れがちになるので、特に意識して書くように助言を行う。 ⑥リズム・イントネーション・発音を工夫しながらSuper Input活動に積極的に取り組んでいる。(観察)

1 単元名 Unit6 Break the Barrier (NEW HORIZON English Course 2)

2 本時の学習

- (1) 目標 関係代名詞を用いて、人物について相手に伝わる英文を作成しようとしている。
関係代名詞を用いて、適切な英文を作成できる。

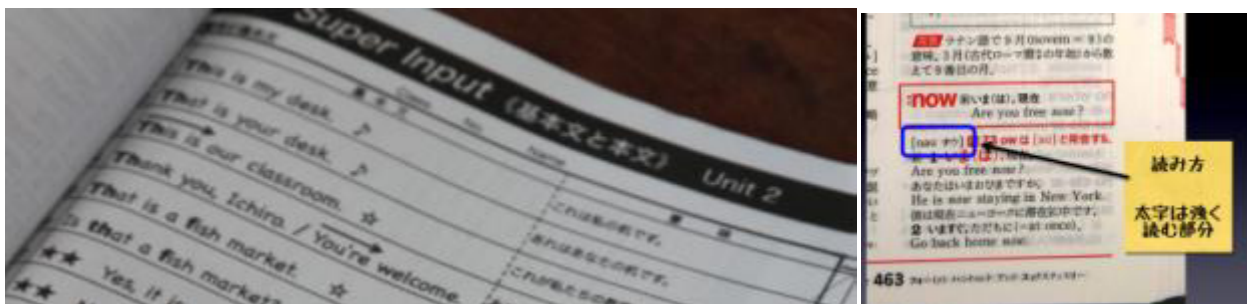
(2) 展開

学 習 活 動	留 意 点
1. Warming up をする。 本時の学習内容の例としてクイズを出す。 例 This is a boy that is the highest in our group. 2. 関係代名詞を使った言語活動をする。 単語やフレーズを自由に使って、人物を紹介する英文を作成しよう。 (1) 4人グループの中の1人を選んで、その人物についてのクイズを4文で表す。 (2) 関係代名詞の who(that)を使用し、友達の紹介文となるようにする。 (4) 完成したクイズをB4の用紙のペンで書く。 自分のワークシートにも同様に記入する。 3 各グループのクイズを自由に見て回り、誰なのかを予想し、ワークシートに記入する。 4 発表の練習をする。 5 全体の前で発表をし、クイズの答え合わせをする。 6 まとめをする。 作成した英文を書いて練習する。	・インタビューから入り、教師の会話を聞かせ、英語を話す雰囲気を作る。 ・ナチュラルなスピードで英文を読み、模範となる発音を聞かせる。 ・机間指導をしながら、適切な表現をアドバイスする。 ・ALTは、机間指導しながら英文の構成を確認し、良くできている班には称賛する。 ・文法のミスがないかどうかを確認し、アドバイスをする。 ・ALTは英会話を交えながら生徒と一緒に活動に参加をする。 ・正しい発音ができるようにデモンストレーションを行う。 ・優れた発表に対して称賛し意欲を喚起する。 ・まとめとして、クイズの英文を発音練習させる。 ㊦ 関係代名詞を使って人物を紹介する英文をついている。(ワークシート) ㊦ 相手に伝わる発音やスピードで英文を読むことができる。(観察)

(資料1) 第1学年の Super Input でのペアチェック活動 (左・中) 辞書の速引き練習 (右)



(資料2) 第1学年の Super Input シート (左) 電子黒板を使った辞書の引き方のスライド (右)



(資料3) 第1学年のグループによる学び合い学習



(資料4) 第3学年のグループ学習での相互評価ワークシート

Class() Judge's name()					
聞きめすく程良いい早さ... 30秒 ボリューム... 加減					
	Names	Pronunciation	Memorize	Time	Advice
1	Fumito & Maaya	A	A	23	Fumito... 2回目にいて 新記録 良く頑張りました。
2	Kousuke & Fuki	A	A	31	とても良い。発音も良く、聞きめすくが、た。
3	Kousuke & Ryosuke	A	A	27	基準。発音はとても良い、少し早い。
	Tatuya				

1 はじめに

本年度の英語科では学び合いの授業実践を通してコミュニケーション能力の向上を図る取り組みを行った。昨年までも、身につけた知識を活用するための場面に、C&C 活動、Show & Tell、インタラクティブフォーラム（トライアングル・ディスカッション）などを設定し、グループ活動を行ってきた。本年度はこれら発表の場面以外にも、普段の授業の中で生徒同士が学び合うための工夫に重点を置き授業実践を行った。

学び合いを効果的なものとするためには、適切な課題設定が大切である。以前はクラス全体に同じ課題を与え、それぞれのグループで課題に取り組む形をとっていた。この方法だと発表ではグループの皆が協力して活動することができるが、スキットを作る場面では特定の生徒のみが活動し、他の生徒はただ見ているだけとなってしまうケースが見られた。本年度はこの点を改善するために一人に一つずつ課題を与えることで、全ての生徒が課題解決に取り組まざるを得ない環境を作り、学び合いの機会をもてるようにした。

2 実践

(1) Unit7 School in San Francisco (NEW HORIZON ENGLISH Course 1)

どの Part も基本表現に疑問詞が使われ、それぞれ「年齢」「時刻、都市、季節」「授業、外国語、ボランティア活動」「学校生活」が話題となっている。今回はサンフランシスコの中学校の様子を紹介する英文を参考にして、自分自身の生活について英語でスピーチ原稿を書き、互いに疑問詞を用いて質問し合う活動を行った。自分の学校生活を英語で紹介するという課題に、各自が自分自身の生活を思い浮かべ、積極的に原稿を書く姿が見られた。グループ内での発表と一人一つずつの質問作りにも意欲的な取り組みが見られ、活発な活動を行うことができた。

(2) Speaking Plus4 (NEW HORIZON ENGLISH Course 3)

話したい相手が留守だった場合の会話で「後でかけさせましょうか。」と申し出たり、「伝えていただけますか。」と依頼する表現を学習した。スキットづくりのための基本表現の確認ではスモールステップ方式の教材を4人グループで完成させた。この活動ですべての生徒の基礎的、基本的な知識技能の習得と、互いに教え合い、学び合いながら自力で課題を解決していこうとする態度を育むことができた。ペアでのスキット作りと発表では、未習表現も積極的に取り入れるよう指導した。また、スキットに使う文の数を10、14、18、20以上と4段階に分け、自分たちで設定させることで、全ての生徒に達成感を味あわせる工夫をした。より良いスキットを作ろうと意欲的に取り組む姿勢が見られた。

3 成果と課題

学び合い学習を学校全体で実践した結果、グループの中で安心して意見をつぶやける環境が整ってきたことが一番大きな成果である。となりの友だちと対話の練習をしたり、意見交換をしたりすることに慣れ、スムーズに活動することができるようになった。ペアを2つ合わせて4人のグループでの学習も、各自がそれぞれの課題解決に意欲を見せ、必要に応じてグループの仲間に見学したり、尋ねられたりしながら活動することができるようになってきた。グループでの活動を通して、互いの関係がより友好的なものとなってきていると感じる。

コミュニケーション能力を支える、人と人との信頼関係、例えば、安心して発言できる環境が良くなったことにより、英語を用いて発表したり、質問したりし合う活動が以前よりもスムーズに行うことができるようになった。今後の課題は、いかに効果的な学び合いができるよう支援できるかである。そのために生徒が乗り越えたいと思うような良い難易度の課題とはどのような課題なのかを引き続き研究していきたい。

愛宕中学校 第1学年外国語指導案

授業者 JTE 篠塚 正生

ALT フリーマン・アンバー

学級担任 武富 岸子

1 単元名 School in San Francisco (NEW HORIZON ENGLISH Course 1)

2 本時の学習

(1) 目標 学校生活についてのスピーチを互いに行い、スピーチについて質問し合う。

(2) 展開

時 間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価	
		T 1	T 2, T 3
2	1 あいさつ	・ 元気よくあいさつし、英語学習の雰囲気盛り上げる。	
5	2 クリス・クロスゲーム	・ 既習の表現を用いた一問一答の対話を行う。 ・ 3人の教師が順番に質問する。	
38	3 本時の学習課題を把握する。 学校生活についてのスピーチを聞き質問し合う。	・ スピーチを3人で順番に行い、質問をしあう。本時の活動を演じて見せることで視覚から把握させる。	
	4 スピーチ原稿作りと発表を行う。 (1) スピーチ原稿を作る。(5文以上) (2) 見ないで言えるよう練習する。 (3) グループ内で発表し合う。 (4) 1人のメンバーに対して、3人で3つずつ質問を考える。 (5) 質問を見ないで言えるように練習し質問にも答えられるようにする。	・ 本時の学習課題を知らせる。 ・ 原稿は10分で作るよう指示する。 ・ 原稿のできた生徒は暗唱するよう指示する。 ・ 話す人、聞く人のけじめのある活動をさせる。 ・ 疑問詞の入った質問にするよう指示する。 ・ 質問が重複しないよう3つの質問を割り振るよう知らせる。	・ T2はT1と3グループずつ分担し必要に応じてアドバイスをする。 T3はA男、B男、C子のいるグループを中心に巡視を行い、必要に応じてアドバイスをする。 ・ 3名の生徒に直接アドバイスせず、グループメンバーに助言するようにする。
5	5 本時の活動を振り返り、次時の学習内容を確認する。	・ 次時は3分間で"School Life"というテーマで話することを伝える。	・ 本時の活動でよかったところを褒め次時の意欲につなげる。

1 単元名 Speaking Plus 4 (NEW HORIZON ENGLISH Course 3)

2 本時の学習

(1) 目標 相手が留守だったという設定で電話での対話を作ることができる。

(2) 展開

時間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1	1 あいさつをする。	・ 元気よくあいさつをし、英語学習の雰囲気 を盛り上げる。
3	2 本時の学習課題を把握する。 電話の対話でよく使う表現を身につけ、対話文を作ろう。	・ 課題を板書し、本時のねらいを確認できる ようにする。
15	3 ワークシートを用いて、基本表現を確認する。 (1) 電話での応答で使う頻出表現を理解する。 (2) スモールステップ型の問題演習により頻出表現の定着を図る。	・ 一人で問題を解く時間を取った後、グループ活動にする。グループの全員が終わり、答え合わせをし、全ての答えが一致したら教師を呼ぶよう指示を出す。こうすることで、クラス全員に頻出表現を理解させ、知識を定着させるようにする。 ・ 困ったときは、友達に「教えて」と言い、また「教えて」と言われたら相手にわかるように教えるよう話をする。
28	4 オリジナル対話文を作る。 (1) ペアで場面設定をする。 (2) 教科書・ワークシートをもとにオリジナル対話文を作る。 (3) 発表の練習をする。	・ ペアでの場面設定がしやすいよう、はじめに教師が電話での対話を実演する。 ・ グループの形で対話文を作ることで、ペア同士が学び合える環境を作る。 (評) 様々な電話の表現を基本的な語句、文法の知識を活用して適切な場面で使っている。(観察・ワークシート)
3	5 次時の学習内容を知る。	・ よかった点を上げ、本時の活動を賞賛する。 ・ 次時は、友だちに伝わるよう工夫してスキットの発表を行うことを予告し、意欲の継続を図る。

(資料1) 授業の様子



トライアングル・ディスカッション



原稿作り



学習課題と見通しの提示



普段の授業の様子

(資料2) 原稿と評価カードの例

Unit 7 School in San Francisco

"School Life"について子どもと英語で話そう

①自分の学校生活についてスピーチをする
②"School Life"というテーマで3分間英語で話す

①サンフランシスコの中学校になつてもうすぐ、卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。
②自分の学校生活について、卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。
③自分の学校生活について、卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。
④自分の学校生活について、卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。
⑤自分の学校生活について、卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。卒業式の準備がはじまる。

①-1 サンフランシスコの中学校になつてもうすぐ

We have six each day from Monday to Friday.
They're fifty minutes long.
So we change classrooms quickly.
We eat lunch in the cafeteria.
I read books to children in hospitals.

①-2 自分自身について書こう

I'm an Atago Junior high school student.
I like math.
It's interesting.
I like badminton, too.
I play badminton after school.

①-3 Which is your favorite, English or Japanese?
①-4 What's your hobby? Do you play soccer?
①-5

トライアングル・ディスカッション自己評価カード Name ()

名前	山田太郎	グループ名	サンフランシスコ
役割	司会	役割	司会
話し手	山田太郎	話し手	山田太郎
聞き手	山田太郎	聞き手	山田太郎

友だちの発表を聞いて、自分も発表しよう。

友だちの発表を聞いて、自分も発表しよう。

友だちの発表を聞いて、自分も発表しよう。

スピーチ原稿をもとに、4人グループで"School Life"について3分間英語で話をさせた。

英 語 教 育 の 実 践

守谷市御所ヶ丘中学校 担当 中村 右子

1 はじめに

インクルーシブ教育システムは、障害のある者とない者が共に学ぶことを通して、共生社会の実現に貢献しようという考え方である。2006年12月の国連総会で採択された「障害者の権利に関する条約」で示され、日本も批准に向けて2011年8月に「障害者基本法」が改正された。そして「可能な限り障害者である児童及び生徒が障害者でない児童及び生徒と共に教育を受けられるよう配慮」（16条）するとされた。

学習上、支援を必要とする生徒は、特別支援学級や特別支援学校へ行く「生徒が学校に適応する」という考え方から、障害のある生徒の能力を可能な限り伸ばすために「学校が生徒の必要に応じる」という発想の転換が求められる。また、2013年4月に障害者の法定雇用率が引き上げられ、障害者の職業による自立促進に法的配慮が厚くなったことから、「共生社会」実現に向けて日本の社会が本格的に始動したことを窺知できる。この取り組みが強化されれば、障害のある同僚が職場にいる割合が現在よりも高まるであろう。だとすれば、インクルーシブ教育システムとは、障害のある者とそうではない者が学習の場を共有することで、その存在や特徴を幼いころから自然に学んでいくための場を提供するものであり、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業の工夫」という本校の研究テーマは、その一助となると考える。

2 実践

ユニバーサルデザインに関する知識の共有とユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫は、「全ての生徒にとって分かりやすい授業、参加しやすい活動かどうか」という考え方で、授業内で展開できるユニバーサルデザインを実践するように努めた。発達障害の特徴や傾向を知ること、障害の特性に応じたきめ細かな教育的ニーズに可能な限り応えること、その上で、クラスのすべての生徒にとって分かりやすい（学習に取り組みやすい）対応を工夫することが、障害の有無にかかわらず生徒全てにとって有益なものであると考え実践している。

学習指導案では、指導観、本時におけるユニバーサルデザインと本時の展開における支援・援助及び評価欄にユニバーサルデザインに関して言及している。

英語科での、ユニバーサルデザインの視点から具体的な手立てとして、次の3点を取り入れていく。1つ目は視覚的なサポートを行うことである。口頭による説明だけでなく、ピクチャーカードや絵を多用することで学習内容を理解しやすいようにしていく。2つ目は表現活動においてゲーム的要素を取り入れて活動を行いやすいようにしていく。難しいとされている表現活動もゲーム性があることで取り組みやすいと考える。3つ目は活動形態の工夫である。音読時に読むのが苦手な生徒がいた場合は隣にサポートに入るなど、個別の支援等を行っていく。

(1) 第2学年 Unit6 The Story of an Old Clock

2学年では語彙力・表現力の向上のために、授業のはじめに書きとりテストを行っている。毎時間の書きとりテストにより、英語を表現する基礎が身についてきているだけでなく、生徒の学習リズムが整えられている。本単元は表現活動を中心に授業を行うことを意識し、活動時には生徒の身近な話題を活用することで、授業への取り組みを意欲付ける。

(2) 第3学年の実践

3学年の表現活動では、活動意欲の向上と今後の運用への期待へと繋げるために、表現活動や対話活動で既習文法を使用する場面を「守谷駅で」「イオンタウンで」など、生徒の生活場面により近い設定にしている。

本単元は、自分の意見とその理由について述べるだけでなく、友人の意見に耳を傾けようとする態度を養う。また、自己の課題に意欲的に取り組めるように、ディスカッション後の相互評価を行う。

3 成果

インクルーシブ教育システムに関して、学校長による定期的な情報伝達や研修のよって、その概要を理解することができた。また、日野市公立中学校での実践例を学び、学習指導案の中でユニバーサルデザインに関する内容を加えた。それによって、これまでの教育活動を意識的に行うことがユニバーサルデザインの実践に繋がることを確認できた。今後、教育現場の主流になるであろうインクルーシブ教育システムについて、この時期に知識と情報を得て共通理解を図れたこと、そして実践の一步を踏み出したことが今年度の成果である。

第2学年4組 英語科学習指導案

- (1) 目標
There is(are)の構文を用いて、情景を描写する文を作ることができる。
- (2) 本時におけるユニバーサルデザイン
童謡「大きな古時計」誕生について知る单元なので、実際に日本語版、英語版の曲を準備して、本文内容導入の工夫とする。また、生徒自身が学習活動をいつでも確認できるよう、黒板の定位置には授業の流れを表示する。
- (3) 資料・準備
英和辞典, Awareness カード (A カード), ピクチャーカード, 音楽 (「大きな古時計」)
- (4) 展開
(○ユニバーサルデザイン ◎個別の支援)

学習活動及び内容	支援・援助及び評価
1 既習の基本文に関する書きとりテストを行う。 2 A カードに今日の日付, 学習するページ数, 学習課題を記入し, 本時の学習課題を確認する。 There is(are)を使って 状況を表現しよう 3 新出文法を学習する。 (1) 画像を見ながら新出文型を用いた英文を聞く。 There is a light by the window. There is a plant by the light. There are some cushions on the chair. There are some comic books under the chair. (2) There is ,There are を使って部屋を描写するゲームを行う。 (3) 新出文型を使って英文を作る。 There is と There are を使って、自分の部屋にあるものやその場所を表現しよう。 (4) 作文した英文を使ってペアワークを行う。 4 本文の音読練習をする。 (1) 本文の音読練習を行う。 (2) 2 分間で本文を何度も繰り返し音読する。 5 次回の学習内容と家庭学習のアドバイスを聞く。	・毎時間行うことにより, 基本文に慣れ親しみ, 授業前から学習することへの気持ちを整える。 ・語彙力強化のために, 日付, 序数, 数字を英語で毎回記入する。 ○綴りが分からない場合には, 辞書の使用を認めるとともに, 全員が記入し終えたタイミングで綴りの確認を行う。 ○本時の流れを黒板に提示する。 ○ピクチャーカードを用いて画像を写し, 聞き取った内容の視覚的な補助とする。 ○There is(are)の機能を意識付けするために, 新出文法の活用目的や活用場面をイメージできるような画像を選ぶ。 ○ゲーム時間の視覚化のために, 黒板に活動時間を提示する。 ○学習への興味を持続させるために, ゲーム感覚で新出文型を使う活動を行う。 ・机間指導を行い, 生徒が間違いやすい傾向を把握する。誤りの典型と発想が優れているものを提示し, 次回以降の英文作りの基礎を作る。 評価 There is(are)の構文を用いて, 自分の部屋にあるものを表現できる。(ノート・観察) ◎英文作成が苦手な生徒のために, 英文が完成した生徒の例文を板書することで支援する。 ・生徒の発話量を確保するために, ペアワークを行う。 ・学習活動の達成度を意識付けるため, 音読回数を A カードに記入させる。 ◎音読が苦手な生徒の近くでともに音読する。 - 生徒の興味・関心を高める視覚材料を使用する。 ・生徒自身が自分の課題や家庭学習でやるべきことを見通せるよう, 具体的に助言する。

第3学年2組 英語科学習指導案

(1) 目標

自分の意見とその理由を相手に分かりやすいように伝えることができる。

(2) 本時におけるユニバーサルデザイン

本時の流れや活動方法が理解しやすいように，学習活動の流れや表を黒板の所定位置に提示する。また，Interactive Forum の DVD を鑑賞し分析することで，討論の評価基準を明確にする。

(3) 資料・準備

電子黒板，パソコン，Interactive Forum の DVD，評価基準用紙，自己評価カード

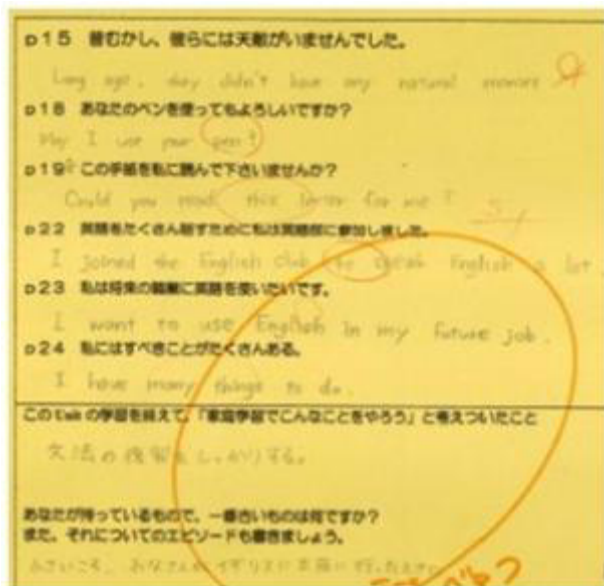
(4) 展開

(○ユニバーサルデザイン ◎個別の支援)

学習活動及び内容	支援・援助及び評価
1 あいさつをする。 2 本時の学習課題を知る。 自分の意見とその理由を相手に分かりやすいように伝えよう。 3 ディスカッションの評価方法を確認する。 (1) Interactive Forum の映像を視聴し，評価の基準を確認する。 (2) グループになり，個人で行った評価を話し合う。 (3) 全体でフィードバックする。 4 4人1組でのディスカッションを行う。 (1) ディスカッションを3人で行う。 (2) 1人が3人のディスカッションを評価し，終了後すぐに評価と助言を述べる。 (3) グループの中で役割を交代して行う。 5 本時のまとめを行う。 (1) 自己評価カードへの記入を行う。 (2) 自己評価の内容を全体場で共有する。	・元気に挨拶をする。 ○本時の流れが視覚で理解できるよう，黒板の定位置に学習活動の流れを提示する。 ※ALT は，意見を述べる際のポイント（結論とその理由）を伝える。また，相手の意見を聞いているときの態度や phrase を確認する。 ○評価基準表を黒板に掲示する。 ・Interactive Forum の映像を見て，討論の様子を分析させる。 ・評価用紙に，質問をしたら Q を，答えたら A を，サポートの発言をしたら SP などを書かせる。 ・発表者の良い点や悪い点を話し合い，評価基準を確認し合う。 ◎評価の仕方が分からない生徒がいる場合には映像を止めて，全体で確認し合う。 ※ALT は視聴しての感想を述べる。意欲的に話し合いに取り組めるように助言する。 ※人数の足りないグループには ALT が入る。 ○討論者，評価者の順番が分かるよう，黒板に提示する。 ◎発言が苦手な生徒に対しては，短い文章やあいづちをうつなど支援する。 評価 自分の意見とその理由を相手にわかりやすいように伝えることができたか。 (ワークシート，観察) ・本時の取り組みを振り返らせる。 ・自己評価を行うことで，今後の英語学習に向けて，自分のさらに伸ばしたい点を意識させる。

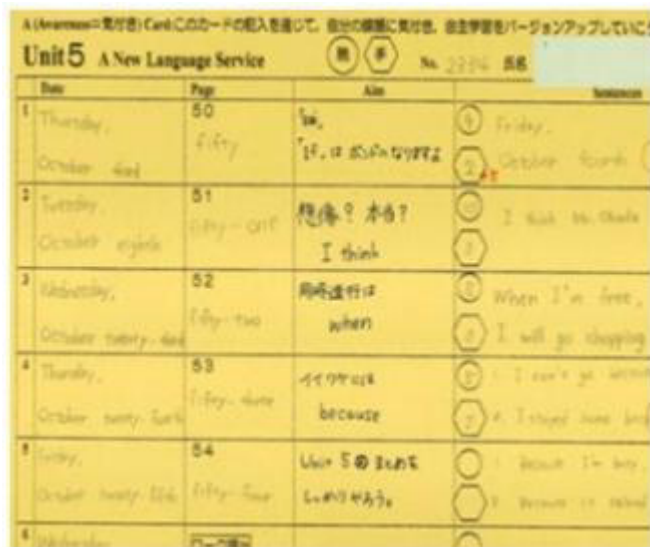
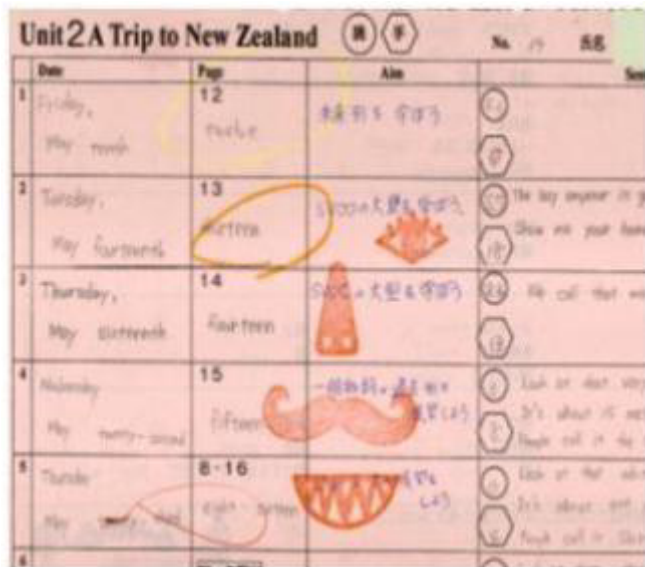
資料 1) 2 学年 Awareness card 裏

授業開始時に行う小テストは 1 学期には単語、2 学期には文章にした。



(資料 2) 2 学年 Awareness card 表

日付、ページ数、学習目標記入の定着のために、Unit3 まではスタンプを活用し、毎回机間指導を行った。



< 参考文献 >

「通常学級での特別支援のスタンダード」

日野市公立小中学校全教師・教育委員会 2010 年 東京書籍

「教室でできる特別支援教育のアイディア」 月森久江 2005 年 図書文化社

外国語（英語科）の実践

守谷市立けやき台中学校

1 はじめに

今年度本校の英語科においては、「基礎・基本を活用し、自ら考えを相手に伝える『発信力』を育成するための工夫」というテーマのもとに研究を進めてきた。

第1学年においては、発信力の根幹となる基礎・基本の定着に特に力を注いだ。第2学年では4技能を総合的に育成できるような課題設定を心がけた。第3学年では英語をコミュニケーションのツールとして活用できる生徒の育成を目指した。

2 具体的な実践内容

(1) 第1学年の取組

- ① 入門期にはフォニックスの基礎や小学校でなじみのある単語を取り扱い、無理なく中学校での学習に取り組めるように配慮した。学区内の小学校で使用したゲームを行うことで、生徒たちが自信をもって新出文型を用いたゲームに参加できるようにした。
- ② 学区内の小学校の先生方と意見交換を行うことで、中1ギャップの問題を解決できるよう心がけた。

(2) 第2学年の取組

- ① input活動と、モデルをまねて表現したり自分の言葉に置き換えたりするoutput活動との適度なバランスを取りながら言語活動を積み重ねた。その上で、生徒が興味をもって取り組むことができ、これまで学習した成果を総合的に発揮する言語活動を取り入れた。
- ② 生徒の学びを評価する方法の一つとして「パフォーマンス評価」を取り入れた。ALTの協力を得て、ALTと生徒が1対1で行うパフォーマンス評価により、生徒は生きた英語に触れたり、実際に学んだ英語を使ったりする機会を得られた。思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、学習が停滞している生徒に適切な指導を行っていくことができた。

(3) 第3学年の取組

- ① 既習の文法を用いて修学旅行記や日本文化の紹介などを作成する課題に取り組ませ、生徒たちが積極的に日本について英語で情報を発信するきっかけ作りを心がけた。
- ② ALTとのスキットでは、レストランや空港などより実用性が高い場面を設定し、生徒たちの興味・関心を高めつつ、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさや英語の有用性が実感できるよう心がけた。

3 成果と課題

より実生活に近い状況を設定し既習事項を活用する課題に取り組んだことで、積極的に自己表現を図ろうとする姿が多く見られるようになった。課題を通して生徒たちの興味・関心を高めながら、学力が停滞している生徒への支援を行っていきたい。

1 単元名 Unit 6 ベッキーのおばあちゃん

- (1) 目標 ・三人称単数現在形を用いた文章を読んで、内容を理解することができる。
・身近な人物について友達に話したり、質問し合ったりすることができる。
- (2) 展開 (○は研究主題に迫るための具体的な手立て、㊦は評価を表す。)

学 習 内 容 及 び 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 あいさつをする。	・キャビネットバンクを活用したチャンツを歌い英語を学習する雰囲気をつくる。
2 Warm-upをする。	・He plays~. やShe likes~. などのヒントを聞き、人物を推測できるようにする。
3 学習課題を確認する。 身近な人について友達と英語で話をしよう。	
4 教科書の内容を理解する。 (1) 英問英答で内容の確認 (2) CDの後について、教科書を見ないでリピート。 (3) 語句の確認 (4) シャドーイングの練習 (5) 教科書の内容の確認	・内容を把握しやすいように、教科書の拡大図を提示する。 ・シャドーイングの練習では、ペアになりお互いに聞き合うことで、学習意欲を高める。 ・ナンシーについて絵に合うように紹介文を完成させる学習を通し、要約する活動につなげられるようにする。 ㊦三人称単数現在形の用法を用いた文を読んで、内容が理解できる。(ワークシート、観察) ・努力を要する生徒に対しては語句の選択肢を与えて、英文が完成できるように個別に支援する。
5 1分間の会話練習をする。 予想される会話のパターン例 A: Hello. I have a brother. He likes baseball. B: Oh, I like baseball. Does he play baseball? A: Yes, he does.	・ペアまたは3人グループになり、家族や友達などを紹介したり、質問したりする会話練習をする。 ○英会話表現週を活用することで、簡単な質問をしたり、感想を述べたりすることができるような手立てを講じる。 ㊦第三者を紹介したり、質問をしたりして、英語で会話を続けることができる。(発表、観察) ・努力を要する生徒でも、会話の流れを示すことでコミュニケーションを展開しやすくなるので、個別に支援し、自信をもたせたい。
6 本時のまとめをする。	・ノートに今日の学習でできたことを書き、学習の達成感を得られるようにするとともに、次時の学習への意欲をもたせる。
7 あいさつをする。	

1 題材名 Spraking plus 2 電話での応答 ― 取り次ぎをたのむ

2 本時の学習

(1) 目標 電話を取り次いでもらう表現などを知り、進んで使おうとする。

(2) 展開 (○は研究主題に迫るための具体的な手立て, ㊦は評価を表す。)

学習活動及び内容	指導上の留意点
1 あいさつをする。 2 Warm-upをする。 ・クイズをする。〈列グループ〉 3 本時の学習課題を知る。 電話の会話 ― お目当ての人を呼び出してもらおう 4 電話の応答に使われる基本表現を学習する。 5 取り次ぎを頼む表現を学習する。 (1) 基本表現の置き換え練習をする。 (2) 伝言ゲームをする〈列グループ〉 Hello. This is Shin-nosuke. May I speak to Kazama-kun? 6 モデル対話を聞き、場面や対話の概要を理解する。 (1) ALTとJTEの対話を聞く。 (2) 新出語句の練習をする。 (3) 音読する。 ①開本してRepeat Reading Role Reading ②閉本してShadowing (4) ワークシートの質問に答える。 7 本時の振り返りを行う。 ・Dictationをする。 8 あいさつをする。	・電話の鳴る音などの、日本語と異なる「英語の擬音の表し方」に関するクイズを行い、生徒の興味を促す。 ○問題（文字）や答えはALTが電子黒板で提示する。 ○列対抗とし、順番に全員が参加できるよう方法や小道具を工夫する。 ・去年学習した電話の会話について容易に思い出せるよう、去年使用したピクチャーカードを提示してJTEとALTで場面と会話を再現する。 ・電話特有の音調にも注目させる。 ○ALTが電子黒板を用いて、文字を示したり、消したりして繰り返し発話させる。 ○誰が誰に電話を取り次いでもらいたいと言っているのかを当てる伝言ゲームを列対抗で行い、楽しみながら、全員が基本表現を口頭練習できるようにする。 ・Warm-upの活動と同じグループで、同じ小道具を使うことで活動のやり方を理解しやすくする。 ○ワークシートを利用し流れをとらえやすくする。 ・ALTが指示し、JTEが生徒とともに読むことでモデルを示す。一斉のShadowingではごく小さい声で行わせる。 ・Speaking Plusでは、英文を1つ1つ訳すのではなく、概要を把握する習慣を付けさせ、より実際のコミュニケーションに近付けるようにする。 ㊦電話を取り次いでもらう表現などを知り、進んで使おうとしている。（観察・ワークシート） ・JTEは机間指導し、活動が滞っている生徒には教科書やワークシートの参照箇所を示すなどして支援する。 ・本時の学習内容を確認するとともに、次回の学習への意欲をもたせる。

資料 1 ペア学習（第 1 学年での Q&A 活動）



発信力の根幹となる基礎・基本の定着を目指し，教科書の基本文をもとにした Q&A 活動に取り組んだ。

資料 2 パフォーマンステスト（第 1 学年でのスピーキングテスト）



各学年で ALT と 1 対 1 で行うスピーキングテストを実施した。学習した表現を実際に使用する機会を設けたことで，表現の有用性を実感できた。

資料 3 第 2 学年での電話の会話におけるワークシート

第 2 学年での電話の会話におけるワークシート

Review 去年の復習をしよう。

ケビン：Hello, Kevin? That is (Kevin).

ベッキー：Oh! Hi, (Kevin).

ケビン：Are you free on Saturday night?

ベッキー：It's my birthday party.

ケビン：Yes, I'm free.

ベッキー：It starts at six.

ケビン：Great. See you then. Good bye.

ベッキー：Bye.

Words: 新しい語句を覚えよう

card(s)	practice
Just a minute.	
What's up?	
Why don't you ...?	
★ May I speak to ...?	please? (お話を聞かせてください。)

Task: ケビンとベッキーの会話の内容と合っていれば「正」、違っていれば「誤」、を書きなさい。

(1) Kevin wants to talk to Becky.

(2) Kevin says, "May I talk to Mrs. Jones, please?"

(3) Becky has to practice the piano today.

Answers: 先生の読む英文を書き取ろう

(1) _____

(2) _____

(3) _____

去年の復習を兼ねたモデルを提示したことで，無理なく学習に取り組めるよう配慮した。

また，読む能力や聞く能力など 4 技能を総合的に育成できるような課題を設定した。